

## 事前評価個表

事業名	森林水環境総合整備（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成20年度（5年間）																
事業実施地区名 （都道府県名）	えにわ 恵庭 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 石狩森林管理署																
事業の概要・目的	<p>当地区は、恵庭市の千歳川上流地区に位置し、下流には北海道開発局漁川ダム（恵庭・千歳・江別・北広島の上水施設、農業・工業用水）と、合わせ16万人が住む恵庭市・千歳市があり、新千歳空港（国際空港）をはじめ北海道における重要な地域でもあることから、漁川ダムへの流入する濁水の防止及び森林整備事業の推進について、恵庭市と千歳市から要請されている。</p> <p>このため、漁川ダムへの濁水の流入を防止し、地域住民の民生の安定を図るため、実施するものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>山腹工</td> <td>：</td> <td>3箇所</td> <td>0.12ha</td> </tr> <tr> <td>溪間工</td> <td>：</td> <td>4基</td> <td>1,032m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>保 育</td> <td>：</td> <td></td> <td>252.67ha</td> </tr> <tr> <td>本数調整伐</td> <td>：</td> <td></td> <td>558.31ha</td> </tr> </table>			山腹工	：	3箇所	0.12ha	溪間工	：	4基	1,032m <sup>3</sup>	保 育	：		252.67ha	本数調整伐	：		558.31ha
山腹工	：	3箇所	0.12ha																
溪間工	：	4基	1,032m <sup>3</sup>																
保 育	：		252.67ha																
本数調整伐	：		558.31ha																
費用対効果分析	総費用（C）	188,044千円																	
	総便益（B）	水源かん養便益	39,709千円																
		災害防止便益	285,497千円																
		計	325,206千円																
	分析結果（B / C）	1.73																	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、当該事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床の安定、荒廃森林の復旧が図られ、水土保全機能の向上とともに、地域住民の民生安定が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 当該事業の計画に当たっては、間伐材の利用や生態系保全の配慮とともに、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>																		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	しろしきわ シロジ沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 石狩森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、余市郡余市町浜中町の海岸沿いの切り立った岩盤斜面に位置し、直下には町道と余市河口漁港がある。新第三紀層堆積岩・泥岩からなり、風化が著しく、降雨時に落石があり通行止めになる被害も出ている。夏期間には漁業以外にヨットのマリナーの利用者や歴史的建造物の見学者が多く利用することから、余市町から落石防止対策が求められている。</p> <p>このため、利用度の多い町道の安全の確保と地域住民の民生の安定を図るため、実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工：落石防止工 0.09ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	12,500千円	
	総便益（B）	206千円	
	災害防止便益	32,516千円	
	計	32,722千円	
	分析結果（B/C）	2.62	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 現在も少量の落石が続いており、今後の降雨時等に落石の恐れがあることから、地域住民の民生安定を図るために当該事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、岩盤の安定化が図られ、地域住民の民生安定が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 当該事業の計画に当たっては、生態系保全の配慮とともに、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ひやくまつざわ</small> 百松沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 石狩森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、札幌市定山溪の豊平川上流百松沢川に位置し、下流には北海道電力砥山ダムと八剣山登山道がある。石英安山岩集塊岩からなり、平成15年度に災害復旧工事を施工した地域であるが、山腹面の緑化が未実施となっており、今後の降雨等により表土が流出する恐れがある。</p> <p>このため、山腹斜面の安定を図り、登山道の安全の確保と下流への土砂流出を防止するため、実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工：緑化工 0.09ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	962千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	27千円
		災害防止便益	3,974千円
		計	4,001千円
	分析結果（B / C）	4.16	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：平成15年度に施工した災害復旧工事により、崩壊斜面は安定してきているが、今後の降雨時等に表土が流失する恐れがあることから、当該事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、崩壊箇所の安定が図られ、水土保持機能が向上するとともに、ダムや登山道等の保全が図られことから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：当該事業の計画に当たっては、間伐材の利用や生態系保全の配慮とともに、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>やまもとのさわ</small> 山本の沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、平成13年9月の台風15号（173mm）により多量の土砂が流出し、下流の農地に被害をもたらした。 また、溪床には不安定土砂が堆積しており、降雨時等には土砂が流出している現状にあり、夕張市からも施工要請がある。 このため、溪床・溪岸の安定化により土砂の流出を防止し、農地の保全を図るため、実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	17,308千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	290千円
		災害防止便益	31,492千円
		計	31,782千円
	分析結果（B / C）	1.84	
評価結果	<p>・必要性：融雪期や大雨時に土砂が流出している状況であり、今後の降雨等により農地等に被害を与える恐れがあるため、当該事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性：当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が向上するとともに、農地等の保全が図られることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性：当該事業の計画に当たっては、間伐材の利用や生態系保全の配慮とともに、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ほったのさわ バツタの沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、平成13年9月の台風15号（173mm）により多量の土砂が流出し、下流の市道や農地に被害をもたらした。 上流には鋼製梓谷止工が施工されているが満砂状態にあり、渓床には不安定土砂が堆積し、そのまま放置すると降雨等により土砂が流出する恐れがあり、夕張市からも施工要請がある。 このため、渓床・渓岸の安定化により土砂の流出を防止し、市道や農地等の保全を図るため、実施するものである。</p> <p>主な事業内容 渓間工：1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	17,500千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	290千円
		災害防止便益	31,492千円
		計	31,782千円
	分析結果（B / C）	1.82	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：融雪期や大雨時に土砂が流出している状況であり、今後の降雨等により市道等の保全対象に被害を与える恐れがあることから、当該事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能の向上とともに、市道や農地等の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：当該事業の計画に当たっては、間伐材の利用や生態系保全の配慮とともに、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<sup>153てんさわ</sup> 153点沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 胆振東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、穂別町下流のルベシベ沢に位置し、一般民有林を挟んで民有林林道ルベシベ線に接している。          渓床には不安定土砂が堆積しており、降雨時等には土砂の流出がみられ、穂別町からも一般民有林・民有林林道の保全に関する要望書が提出されている。          このため、渓床の安定化を図り不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全を図るため、実施するものである。</p> <p>主な事業内容 谷止工：2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	31,250千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,484千円
		災害防止便益	90,202千円
		計	91,686千円
	分析結果（B / C）	2.93	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 渓床に堆積する不安定土砂の状況等から、今後、降雨等により土砂が流出し、一般民有林・民有林林道に被害を及ぼす恐れがあることから、当該事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当該事業の実施により、渓床内に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能の向上とともに、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 当該事業の計画に当たっては、間伐材の利用や生態系保全の配慮とともに、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16～18年度（3年間）						
事業実施地区名 （都道府県名）	タルマップ地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 留萌南部森林管理署						
事業の概要・目的	<p>当地区は、留萌市幌糠のタルマップ川上流に位置し、地質は新第三紀中新世西徳富層群の豊別層で、泥岩の互層のため脆弱である。平成13年5月の融雪時に大規模な地すべりが発生し、下流域に被害を与えた。 このため、災害関連緊急事業の適用を受け、本格的な地すべり対策工事を施工し、復旧を図ったところであるが、施工区域外から流入する有害水を排除するため、水路工と施工区域内の裸地に植栽工を実施し、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table> <tr> <td>水路工</td> <td>420m</td> </tr> <tr> <td>植栽工</td> <td>1.14ha</td> </tr> <tr> <td>標識設置</td> <td>1基</td> </tr> </table>			水路工	420m	植栽工	1.14ha	標識設置	1基
水路工	420m								
植栽工	1.14ha								
標識設置	1基								
費用対効果分析	総費用（C）	47,288千円							
	総便益（B）	水源かん養便益	31,913千円						
		環境保全便益	32千円						
		災害防止便益	99,560千円						
		計	131,505千円						
	分析結果（B/C）	2.78							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：地すべり地内に流入する有害水の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当事業の実施により、有害水の除去が図られ、植栽工による水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>								

# 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全対策工(国有林)	事業計画期間	平成16年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	ふじさきさわ フジサキ沢 (北海道)	事業実施主体	北海道森林管理局 留萌南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、苫前郡苫前町内を流れる古丹別川上流に位置し、地質は新第三紀の古丹別層で礫岩・砂岩及び泥岩の互層のため脆弱である。平成10・11年の集中豪雨により奥地に崩壊地が発生した。 このため、山腹崩壊地の拡大を防止し、奥地保安林の保全を図る目的で山腹工を計画した。これにより崩壊地の復旧整備を実施し、水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.05ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	8,654千円	
	総便益(B)	水源かん養便益 649千円 災害防止便益 24,561千円 計 25,210千円	
	分析結果(B/C)	2.91	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹斜面の崩壊状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、下流域の保全等、保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧が図られ、水土保全機能が維持向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>こまたさわ</small> 小股沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、平成14年5月に発生した融雪による地すべりのため、大量の土砂が流出し、下流域に被害を与えた箇所であり、渓流内には不安定土砂が堆積している。</p> <p>このため今後の融雪・豪雨等により流出する危険性があり、流出防止と山脚の固定を図ることを目的に溪間工を計画した。これにより、荒廃渓流及び山腹荒廃地の復旧を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	25,000千円	
	総便益（B）	2,066千円	
	環境保全便益	2千円	
	災害防止便益	52,459千円	
	計	54,527千円	
	分析結果（B/C）	2.18	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：融雪及び豪雨による土砂流出の状況から、放置すれば今後の融雪・豪雨等により土砂の流出が懸念されることから、本事業は必要である</li> <li>・有効性：本事業の実施により、崩壊地から流出する土砂の流出防止を図ることができ、水土保持機能が維持・向上されることから有効である。</li> <li>・効率性：本事業の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されております。また、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	水源森林総合整備（国有林）	事業計画期間	平成16～20年度（5年間）						
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>みなみあかちく</small> 南丘地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川北部森林管理署						
事業の概要・目的	<p>南丘地区は、北海道上川郡和寒町の天塩川の支流剣淵川上流に位置する和寒国有林内の地区を対象としている。          当地区は、対象面積1,069haで、噴出岩類の角閃石輝石安山岩1でガラ地や笹地が多く見られる。          下流の集落では、農業用取水施設があり水資源の安定的な供給及び自然環境の維持・保全等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高い。          本事業は、これらの要請に応えながら、荒廃森林や老齢過熟木の多い林層であることから森林整備を総合的に実施し、水資源の確保、と下流域の保全・保安林機能の維持向上を図ることを目的として本事業を計画した。</p> <p>主な事業内容</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 40px;">植栽工</td> <td style="text-align: right;">62ha</td> <td style="text-align: right;">本数調整伐78ha</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">作業道新設</td> <td style="text-align: right;">8,500m</td> <td></td> </tr> </table>			植栽工	62ha	本数調整伐78ha	作業道新設	8,500m	
植栽工	62ha	本数調整伐78ha							
作業道新設	8,500m								
費用対効果分析	総費用（C）	159,378千円							
	総便益（B）	水源かん養便益	260,140千円						
		山地保全便益	389,439千円						
		環境保全便益	18,423千円						
		計	668,002千円						
	分析結果（B/C）	4.19							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 荒廃森林の整備により、下流域への良質な水資源の確保、保全等水土保全機能の維持向上のため、本事業は必要である。</li> <li>・有効性： 本事業の実施により、水資源の確保、土砂の流出防止など下流域の保全が図られることから事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul>								

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>たけふしのさわ</small> 竹藤の沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、道北の士別市の西側に位置し、下流には農地が広がっている地域である。白亜紀の塊状泥岩、シルト岩からなり風化が著しく崩壊し易い砂礫層である。</p> <p>このため、今後の融雪・豪雨等により流出する危険性があり、流出防止と山脚の固定を図ることを目的に溪間工を計画した。これにより、荒廃溪流及び山脚荒廃地の復旧を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	14,423千円	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	2,596千円	
	環境保全便益	3,917千円	
	災害防止便益	34,973千円	
	計	41,486千円	
	分析結果（B/C）	2.88	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：融雪及び豪雨による土砂流出の状況から、放置すれば今後の融雪・豪雨による土砂の流出が懸念されることから、本事業は必要である。</li> <li>・有効性：当事業地の実施により、上流域に点在する崩壊地からの流出する土砂の安定を図ることができ、水土保持機能が維持・向上されることから有効である。</li> <li>・効率性：対策工については、現地の状況に応じた最も効率的かつ効果的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>うえはらちきき</small> 上原地先 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、北海道の北端部に位置し、そのうえ外洋にさらされているので、各月を通じて一般に寒冷である。 地質は新第三紀層で岩質は頁岩であるが、露岩地は凍結・融解で風化し易い状況にある。 当該箇所は、平均勾配35°の斜面直下に住宅が密集しており、既設コンクリート土留工が土圧等のためズレが生じ、危険な状態となっているため、既設土留工にアンカーを打ち込み、安定を図る目的で計画した。 また、下部住民から治山施設の要望が出されている箇所である。</p> <p>主な事業内容 アンカー工 189m</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	25,000 千円	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	596 千円	
	環境保全便益	1 千円	
	災害防止便益	136,923 千円	
	計	137,520 千円	
	分析結果（B/C）	5.50	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性： 既設工作物のズレが生じている状況を放置すれば人家への土砂流出・倒壊等の被害が懸念されること、周辺住民からも保安施設の設置要請がされていることから当事業の実施が必要である。</li> <li>有効性： 事業の実施により既設土留工の安定が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効率的かつ効果的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16～18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おろえんかわ オロエン川 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、古第三紀層の地質で、旭川市の南東に位置し、下流には農地が広がっている地域である。 融雪及豪雨により溪流に堆積している不安定土砂が農地及び市道に流出していた。 このため、今後の融雪・豪雨等により流出する危険性があり、流出防止と山脚の固定を図ることを目的に溪間工等を計画した。これにより、荒廃溪流及び山腹荒廃地の復旧を図るものである。</p> <p>主な事業内容  溪間工 1基  山腹工（土留工）0.16ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	86,534 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 7,927 千円 環境保全便益 13 千円 災害防止便益 227,821 千円 計 235,761 千円	
	分析結果（B/C）	2.72	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：融雪及び豪雨による土砂流出の状況から、放置すれば直下の農地、人家等被害の拡大等が懸念されることから、地域住民の民生の安定を図るために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当事業の実施により、上流域の不安定土砂の流出防止を図ることができ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上に効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	まきのさわ マキの沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署北空知支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、石狩川支流、雨竜川の上流に位置し、直下方には国道275号線が走り下流には人家・農地等もあり融雪・豪雨等によって土砂が下流に流出する危険性が高い。 このため、溪間工を施工し、今後の融雪・豪雨等による不安定土砂の移動及び、荒廃危険山地の崩壊等の予防を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	15,385千円	
	総便益（B）	18,245千円	
	環境保全便益	12千円	
	災害防止便益	25,673千円	
	計	43,930千円	
	分析結果（B/C）	2.86	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば溪岸浸食の拡大等が懸念されることから、農地等の保全及び水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>かみくまおいのさわ</small> 上熊追の沢地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、常呂郡置戸町西部、常呂川支流仁居常呂川上流部に位置し、下流域には、道道（留辺蘂・本別線）があり国土保全上重要な地域であるが、山腹崩壊や溪岸浸食により不安定土砂が随所に堆積しており、今後の豪雨や融雪等により土砂が流出して下流域に被害を及ぼす恐れが大きくある。</p> <p>このため、治山事業の実施により土砂の流出等を予防し、道道等の保全及び流域内の水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	9,615 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 5,312 千円 災害防止便益 17,487 千円 計 22,799 千円	
	分析結果（B / C）	2.37	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保全機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する不安定土砂の安定及び流出の抑制が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>むりがわほんりゅう</small> 武利川本流地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、紋別郡丸瀬布町南部、湧別川支流武利川上流部に位置し、下流域には、大規模林道（滝雄・厚和線）、林道等があり国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内には随所に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨や融雪等により土砂が流出して下流域に被害を及ぼす恐れが大きくなる。</p> <p>このため、治山事業の実施により溪床荒廃地の復旧と不安定土砂の安定を図り、林道等の保全及び水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	65,680 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 18,734 千円 災害防止便益 122,405 千円 計 141,139 千円	
	分析結果（B / C）	2.15	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の浸食や溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保全機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>いわきのさわ</small> 岩城の沢地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、紋別郡白滝村東部、湧別川上流部に位置し、下流域には、国道（333号線）、鉄道（JR石北本線）があり、国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内には随所に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨や融雪等により土砂が流出して下流域に被害を及ぼす恐れが大きくある。</p> <p>このため、治山事業の実施により溪床荒廃地の復旧と不安定土砂の安定を図り、国道等の保全及び水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	25,000 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 3,312 千円 災害防止便益 64,716 千円 計 68,028 千円	
	分析結果（B / C）	2.72	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の浸食や溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ばんけのさわ パンケの沢地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走西部森林管理署 西紋別支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、紋別郡滝上町南部、渚滑川上流部に位置し、下流域には、人家、国道（273号線）、農地があり国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内には随所に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨や融雪等により土砂が流出して下流域に被害を及ぼす恐れが大きくある。</p> <p>このため、治山事業の実施により溪床荒廃地の復旧と不安定土砂の安定を図り、国道等の保全及び水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：4基 管理車道新設</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	79,475 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 17,692 千円	
	災害防止便益	163,132 千円	
	計	180,824 千円	
	分析結果（B / C）	2.28	
評価結果	<p>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に、土砂が流出して下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</p> <p>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られるとともに、事業実施に伴う管理車道により森林整備の推進が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</p> <p>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>たかだのさわ</small> 高田の沢地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、常呂郡佐呂間町南部、佐呂間別川中流部に位置し、下流域には、道道（留辺蘂・浜佐呂間線）、農地、営農用取水施設があり国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内には随所に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨や融雪等により土砂が流出して下流域に被害を及ぼす恐れが大きくなる。</p> <p>このため、治山事業の実施により溪床荒廃地の復旧と不安定土砂の安定を図り、道道等の保全及び水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	14,808 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 3,915 千円 災害防止便益 42,619 千円 計 46,534 千円	
	分析結果（B / C）	3.14	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られるとともに、営農用水としての水資源の保全等、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ひよしがっこうのさわ 日吉学校の沢地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、常呂郡常呂町南部、常呂川下流部に位置し、下流域には、人家、道道（北見・常呂線）、農耕地等があり国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内には随所に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨や融雪等により土砂が流出して下流域に被害を及ぼす恐れが大きくなる。</p> <p>このため、治山事業の実施により溪床荒廃地の復旧と不安定土砂の安定を図り、人家や道道等の保全及び水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	35,654 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 15,834 千円 災害防止便益 78,584 千円 計 94,418 千円	
	分析結果（B / C）	2.65	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保全機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ばいらぎざわ バイラギ沢地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、網走市北部、オホーツク海沿いに位置し、下流域には、人家、道道（網走公園線）、農耕地等があり国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内には随所に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨や融雪等により土砂が流出して下流域に被害を及ぼす恐れが大きくなる。</p> <p>このため、治山事業の実施により溪床荒廃地の復旧と不安定土砂の安定を図り、人家や道道等の保全及び水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：3基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	64,647 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 11,055 千円 災害防止便益 115,866 千円 計 126,921 千円	
	分析結果（B / C）	1.96	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に土砂が流出し、下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保全機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。 また、漁場等の環境保全の面からも有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<sup>1024りんばん</sup> 1024林班地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、斜里郡清里町南部、斜里川支流札弦川上流部に位置し、下流域には、道道（中標津・斜里線）があり国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊が進み、道道の排水溝が埋没している箇所も見られ、今後の豪雨や融雪等により山腹崩壊が拡大し、下流域に被害を及ぼす恐れが大きくなる。</p> <p>このため、治山事業の実施により山腹崩壊地の復旧を図り、道道の保全及び水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工：0.08ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	10,577 千円	
	総便益（B）	<p>水源かん養便益 767 千円</p> <p>災害防止便益 24,561 千円</p> <p>計 25,328 千円</p>	
	分析結果（B / C）	2.39	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況から、放置すれば豪雨等の際に崩壊地が拡大し、直下の道道、及び下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保全機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>たまいしざわ</small> 玉石沢地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、斜里郡斜里町南部、斜里川支流猿間川上流部に位置し、下流域には、町道、農耕地があり国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や溪岸の浸食が見られ、溪床内には随所に不安定土砂が堆積していることに加え、斜里岳（標高1,544.8m）の山麓に位置することから、平成14年7月及び10月の台風による出水時には、下流域の農地において流出土砂の堆砂や土壌が流出する被害が発生しており、今後の豪雨等により更に被害を及ぼす恐れが大きくなる。</p> <p>このため、治山事業の実施により溪床荒廃地の復旧と不安定土砂の安定を図り、農耕地等の保全及び水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	14,423 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 3,477 千円 災害防止便益 33,415 千円 計 36,892 千円	
	分析結果（B / C）	2.56	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に、土砂が流出して下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保全機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>いわおべつがわ</small> 岩尾別川地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、斜里郡斜里町東部、イワウベツ川下流部に位置し、下流域には、道道（知床公園線）、町道があり国土保全上重要な地域であるが、近年の豪雨等により山腹斜面の崩壊や、溪岸の浸食が見られ、溪床内には随所に不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨や融雪等により土砂が流出して下流域に被害を及ぼす恐れが大きくなる。</p> <p>このため、治山事業の実施により溪床荒廃地の復旧と不安定土砂の安定を図り、道道等の保全及び水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工：3基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	37,181 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 4,237 千円 災害防止便益 98,083 千円 計 102,320 千円	
	分析結果（B / C）	2.75	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸の崩壊や浸食、溪床内に堆積している不安定土砂の状況から、放置すれば豪雨等の際に、土砂が流出して下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、水土保全機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃地の復旧や溪床に堆積する不安定土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	保安林管理道整備（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	かみむり 上武利地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、紋別郡丸瀬布町南部、湧別川支流武利川中流部に位置し、下流域には、人家、道道（上武利・丸瀬布線）、農地があり国土保全上重要な地域であるとともに、同下流沿線4町村への発電及び生活・営農用水の水源となっている上武利ダムをかかえることから、良質な水資源の保全についても重要な地域である。</p> <p>また、同ダム周辺は「丸瀬布町いこいの森」としてキャンプ場などの観光施設が整備され、年間10万人を超える人々訪れている地域でもある。</p> <p>このため、治山事業の実施による荒廃渓流等の復旧、及び森林整備を実施するための保安林管理道を開設し、水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 保安林管理道：開設 4,140m</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	82,776 千円	
	総便益（B）	<p>水源かん養便益 35,130 千円</p> <p>環境保全便益 91,616 千円</p> <p>災害防止便益 117,190 千円</p> <p>計 243,936 千円</p>	
	分析結果（B/C）	2.95	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 地区内の人工造林地は、過密化により下層植生が消滅し表土流出等のおそれのある箇所が多く、また、溪岸の崩壊や浸食が進んでいる箇所等も見られ、放置すれば豪雨等の際に下流域に被害を及ぼすことが懸念されることから、各事業を適切に行うためのため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、治山事業の推進はもとより森林の多面的機能の発揮が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現時に応じた最も効果的かつ効率的な路線の選定及び工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>かわおとのさわ</small> 川音の沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、過去の集中豪雨等において溪岸の浸食が発生し、溪床内に多量の不安定土砂が堆積している。 この地域一帯は、新第三紀層砂岩を基岩とする脆弱な地質であり、今後の融雪・豪雨等により溪岸浸食が拡大し、不安定土砂の流出により、直下林道、町道に被害を与えるおそれが高いことから、土砂流出の防止と荒廃溪流の復旧を図る目的で溪間工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（コンクリート床固工1基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	25,865千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,108千円
		山地保全便益	52,666千円
		計	54,774千円
	分析結果（B/C）	2.12	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 放置すれば今後の融雪・豪雨等により、溪床に堆積する不安定土砂の流出が懸念されることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する不安定土砂が安定し、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用対効果分析の効果から十分な効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	かむいやま 神居山 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、溶結凝灰岩を基岩とする脆弱な地質であり、過去の集中豪雨、地震等により山腹が崩壊し、風化した岩石が下方へ滑落した箇所である。          放置すれば、今後の融雪・豪雨等により崩壊地が拡大し、岩石の滑落により、直下にある公園に被害を与えるおそれが高いことから、山腹工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容          山腹工（土留工、落石防止金網工）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	15,385千円	
	総便益（B）	989千円	
	災害防止便益	28,572千円	
	計	29,561千円	
	分析結果（B/C）	1.92	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 放置すれば、今後の融雪・豪雨等により、崩壊地が拡大し岩石の滑落が懸念されることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧がなされ、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用大綱が分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	オソノウシ右の沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、過去の集中豪雨等において溪岸の浸食が発生し、溪床内に多量の不安定土砂が堆積している。 この地域一帯は、古生層細中粒砂岩を基岩とする脆弱な地質であり、今後の融雪・豪雨等により溪岸浸食が拡大し、不安定土砂の流出により、直下林道に被害を与えるおそれが高いことから、土砂流出の防止と荒廃溪流の復旧を図る目的で溪間工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（コンクリート谷止工3基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	35,096千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,066千円
		山地保全便益	75,128千円
		計	78,194千円
	分析結果（B/C）	2.23	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 放置すれば今後の融雪・豪雨等により、溪床に堆積する不安定土砂の流出が懸念されることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する不安定土砂が安定し、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用対効果分析の効果から十分な効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ばんけないがわ パンケナイ川 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、過去の台風、集中豪雨等において溪岸の浸食が発生し、溪床内に多量の不安定土砂が堆積しており、溪岸には風倒木が発生している。 この地域一帯は、新第三紀層を基岩とする脆弱な地質であり、今後の融雪・豪雨等により溪岸浸食が拡大し不安定土砂の流出及び風倒木の流出により、直下林道、道道に被害を与えるおそれが高いことから、土砂及び流木の流出防止と荒廃溪流の復旧を図る目的で溪間工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（谷止工（スリットダム）1基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	52,115千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	4,426千円
		山地保全便益	119,544千円
	計	123,970千円	
	分析結果（B/C）	2.38	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 放置すれば今後の融雪・豪雨等により、溪床に堆積する不安定土砂及び溪岸の風倒木の流出が懸念されることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する不安定土砂が安定し、また、風倒木の流出を防止することにより下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用対効果分析の効果から十分な効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>いわみのさわ</small> 岩見の沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、過去の集中豪雨等において溪岸の浸食が発生し、溪床内に多量の不安定土砂が堆積している。</p> <p>この地域一帯は、ホルンフェルスを基岩とする脆弱な地質であり、今後の融雪・豪雨等により溪岸浸食が拡大し、不安定土砂の流出により、直下国道に被害を与えるおそれが高いことから、土砂流出の防止と荒廃溪流の復旧を図る目的で溪間工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（コンクリート谷止工2基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	27,212千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	4,465千円
		山地保全便益	69,671千円
		計	74,136千円
	分析結果（B/C）	2.72	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 放置すれば今後の融雪・豪雨等により、溪床に堆積する不安定土砂の流出が懸念されることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する不安定土砂が安定し、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用対効果分析の効果から十分な効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16～17年度
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ぬかびらよんのさわ</small> 糠平4の沢 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署東大雪支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、過去の集中豪雨等において溪岸の浸食が発生し、溪床内に多量の不安定土砂が堆積している。</p> <p>この地域一帯は、洪積層砂を基岩とする脆弱な地質であり、今後の融雪・豪雨等により溪岸浸食が拡大し、不安定土砂の流出により、直下国道に被害を与えるおそれが高いことから、土砂流出の防止と荒廃溪流の復旧を図る目的で溪間工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（鋼製床固工1基、鋼製谷止工1基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	36,538千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	4,570千円
		山地保全便益	84,430千円
		計	89,000千円
	分析結果（B/C）	2.44	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 放置すれば今後の融雪・豪雨等により、溪床に堆積する不安定土砂の流出が懸念されることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する不安定土砂が安定し、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用対効果分析の効果から十分な効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山(国有林)	事業計画期間	平成16年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	くどらしくわんないざわ クトラシクワンナイ沢 (北海道)	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、中生層粗粒砂岩を基岩とする脆弱な地質であり、上流には小規模の崩壊地がある。このまま放置すれば、今後の融雪・豪雨等により崩壊地の拡大、溪岸の浸食により土砂が堆積し、直下町道に流出するおそれが高いことから、溪流の崩壊予防のため溪間工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工(コンクリート谷止工1基)</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	10,577千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	1,001千円
		山地保全便益	25,024千円
		計	26,025千円
	分析結果(B/C)	2.46	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 放置すれば融雪・豪雨等により、不安定土砂が堆積し、下流への流出が懸念されることから、当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 溪岸の崩壊・浸食の防止により、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>もとまちちく</small> 元町地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 後志森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は段丘斜面の急斜面に不安定な状態で転石が点在しており、融雪・降雨時等により直下の人家等に被害を与える恐れがあるため、被害防止の対策を図るものである。</p> <p>主な事業内容 落石防止柵 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	8,462千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 1,388千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 194千円 災害防止便益 80,719千円 計 82,301千円	
	分析結果（B/C）	9.73	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹斜面に不安定な状態で転石等が堆積しており、放置すれば直下の人家等に被害を与える恐れがあることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業実施により山腹斜面からの落石対策を実施することにより、下流域の保全等が図られることから事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ほんめじく 本目地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 後志森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は新第三紀層の風化した集塊岩地帯であり、段丘斜面上には不安定な状態で転石が点在しており融雪、降雨時に直下の保全対象に被害を与える恐れがあるため対策工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 落石防止網工 1箇所</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	3,558千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 1,388千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 194千円 災害防止便益 130,880千円 計 132,462千円	
	分析結果（B/C）	37.23	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹斜面に不安定な状態で転石等が堆積しており、放置すれば直下の人家等に被害を与える恐れがあることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業実施により山腹斜面からの落石対策を実施することにより、下流域の保全等が図られることから事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>えいほまちく</small> 栄浜地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 後志森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は新第三紀層の風化した集塊岩地帯であり、段丘斜面上には不安定な状態で転石が点在しており融雪、降雨時に直下の保全対象に被害を与える恐れがあるため対策工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 落石防止網工 1箇所</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	4,519千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 6,328千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 194千円 災害防止便益 89,601千円 計 96,123千円	
	分析結果（B/C）	21.27	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹斜面に不安定な状態で転石等が堆積しており、放置すれば直下の人家等に被害を与える恐れがあることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業実施により山腹斜面からの落石対策を実施することにより、下流域の保全等が図られることから事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ほんめじく 本目地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 後志森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は新第三紀層の風化した集塊岩地帯であり、段丘斜面上には不安定な状態で転石が点在しており融雪、降雨時に直下の保全対象に被害を与える恐れがあるため対策工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 落石防止網工 2箇所</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	21,154千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 1,388千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 78,001千円 計 79,389千円	
	分析結果（B/C）	3.75	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹斜面に不安定な状態で転石等が堆積しており、放置すれば直下の人家等に被害を与える恐れがあることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業実施により山腹斜面からの落石対策を実施することにより、下流域の保全等が図られることから事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>さんぼんすきちく</small> 三本杉地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 渡島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は瀬棚海岸沿いに走る国道229号線に面する段丘斜面に位置し、国道229号線は瀬棚町と隣接町村を結ぶ幹線道路であり、また、沿岸沿いに広がる各地区住民の生活道路としても利用されている重要な道路である。</p> <p>平成14年8月の低気圧による集中豪雨によって段丘斜面に崩壊地が発生したため、渓流の荒廃が拡大し、国道に多量の流出土砂が流下堆積し、通行止めとなった箇所である。</p> <p>このため、地形・地質の状況から今後の降雨等で荒廃の拡大する恐れが大きいことから溪間工を実施し、溪床の安定を図り早期に復旧を図ることとしたい。</p> <p>主な事業内容 谷止工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	24,808千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 1,169千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 78,765千円 計 79,934千円	
	分析結果（B/C）	3.22	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：渓流に多量の不安定土砂が堆積しており、放置すれば土砂の流出が懸念されることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業の実施により溪床の不安定土砂の安定により、下流域の保全等が図られことから、事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山(国有林)	事業計画期間	平成16年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>もとうらいちちく</small> 元浦1地区 (北海道)	事業実施主体	北海道森林管理局 渡島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は瀬棚海岸沿いに走る国道229号線に面する段丘斜面に位置し、国道229号線は瀬棚町と隣接町村を結ぶ幹線道路であり、また、沿岸沿いに広がる各地区住民の生活道路としても利用されている重要な道路である。</p> <p>平成14年8月の低気圧による集中豪雨によって段丘斜面に大小の崩壊地が発生したため、溪流の荒廃が拡大し、国道に多量の流出土砂が流下堆積し、通行止めとなった箇所である。</p> <p>このため、地形・地質の状況から今後の降雨等で荒廃の拡大する恐れが大きいことから溪間工を実施し、溪床の安定を図り早期に復旧を図ることとしたい。</p> <p>主な事業内容 谷止工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	11,572千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	1,169千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	55,639千円
		計	56,808千円
	分析結果(B/C)	4.91	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：溪流に多量の不安定土砂が堆積しており、放置すれば土砂の流出が懸念されることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業の実施により溪床の不安定土砂の安定により、下流域の保全等が図られことから、事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	もとうらにちく 元浦2地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 渡島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は瀬棚海岸沿いに走る国道229号線に面する段丘斜面に位置し、国道229号線は瀬棚町と隣接町村を結ぶ幹線道路であり、また、沿岸沿いに広がる各地区住民の生活道路としても利用されている重要な道路である。</p> <p>平成14年8月の低気圧による集中豪雨によって段丘斜面に崩壊地が発生したため、渓流の荒廃が拡大し、国道に多量の流出土砂が流下堆積し、通行止めとなった箇所である。</p> <p>このため、地形・地質の状況から今後の降雨等で荒廃の拡大する恐れが大きいことから溪間工を実施し、溪床の安定を図り早期に復旧を図ることとしたい。</p> <p>主な事業内容 谷止工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	10,865千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 1,169千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 55,639千円 計 56,808千円	
	分析結果（B/C）	5.23	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：渓流に多量の不安定土砂が堆積しており、放置すれば土砂の流出が懸念されることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業の実施により溪床の不安定土砂の安定により、下流域の保全等が図られことから、事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	かつらかわちく 桂川地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 渡島森林管理署
事業の概要・目的	<p>平成10年5月日本海で発達した低気圧は渡島半島を通過し、これに伴い強い風雨に見舞われ道南地方各地にがけ崩れ、洪水等により家屋への被害を与えた。当地区では溪岸崩壊が発生し、溪流内の不安定土砂を巻き込みながら流出し、水道施設、町道に被害を与えた。</p> <p>下流域には、国道5号線とJR函館本線が縦走し、道南と道央を結ぶ重要な幹線路であり、今後の融雪、降雨等で荒廃が拡大し、被害を与える恐れが大きいことから溪間工を実施し、溪床の安定を図り早期に復旧を図ることとしたい。</p> <p>主な事業内容 谷止工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	18,173千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 1,318千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 194千円 災害防止便益 77,678千円 計 79,190千円	
	分析結果（B/C）	4.36	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：溪岸崩壊により溪流に多量の不安定土砂が堆積しており、放置すれば土砂の流出が懸念されることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業の実施により溪床の不安定土砂の安定により、下流域の保全等が図られことから、事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ゆのほまちく</small> 湯の浜地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 檜山森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は道道奥尻島線沿いに位置し、海岸段丘斜面の急傾斜地の流水が少ない小渓流であるが、降雨の度に溪岸部の崩壊地から土砂が流出し溪床内に堆積していることか道道奥尻島線保全のため事業を計画したものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	15,481千円	
	総便益（B）	10,876千円	
	水源かん養便益	千円	
	山地保全便益	千円	
	環境保全便益	千円	
	災害防止便益	55,639千円	
	計	66,515千円	
	分析結果（B/C）	4.30	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹斜面に不安定な状態で転石等が堆積しており、放置すれば直下の人家等に被害を与える恐れがあることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業実施により山腹斜面からの落石対策を実施することにより、下流域の保全等が図られることから事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>いなほちく</small> 稲穂地区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 檜山森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は新第三紀層の風化した集塊岩地帯であり、段丘斜面上には不安定な状態で転石が点在しており融雪、降雨時に直下の保全対象に被害を与える恐れがあるため対策工を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 落石防止網工 1箇所</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	11,538千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 3,199千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 78,001千円 計 81,200千円	
	分析結果（B/C）	7.04	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹斜面に不安定な状態で転石等が堆積しており、放置すれば直下の人家等に被害を与える恐れがあることから、下流域の保全など保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：事業実施により山腹斜面からの落石対策を実施することにより、下流域の保全等が図られることから事業の有効性が認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画にあたっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており効率性が認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成20年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>こほりないさわ</small> 小堀内沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署上小阿仁支署
事業の概要・目的	<p>本地区は上小阿仁村南部に位置しており、毎年の降雨により山腹崩壊地が発生・拡大しているため、溪床に不安定土砂が多量に堆積し、溪岸浸食を伴いながら下流に流出している。 このため、溪床の不安定土砂を固定させ溪岸浸食を防止し、保安林機能の維持・向上を図るための溪間工を実施する。</p> <p>事業内容 溪間工 5基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	113,738 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	155,281 千円
		山地保全便益	71,740 千円
		災害防止便益	477 千円
	計	227,021 千円	
	分析結果（B/C）	2.00	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床の不安定土砂の堆積状況や溪岸浸食の状況から放置すれば下流に土砂が流出するため事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により土砂の流出が抑制されるなど下流域の保全等が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効率的かつ効果的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコスト縮減に努めていることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成20年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>あきひまたかわ</small> 旭又川 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 秋田森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、秋田市東部に位置する太平山の中腹部にあり、登山やハイキング等の森林レクリエーションの利用が盛んな場所となっている。毎年の降雨により山腹崩壊地が拡大しているため渓流に多量の土砂が流出し、下流にある森林レクリエーション施設等に被害を与える恐れが生じている。 このため、土砂の流出を防止し、保安林機能の維持・向上を図るための溪間工と山腹工を実施する。</p> <p>主な事業内容 溪間工 5基 山腹工 1ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	161,450 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	120,003 千円
		山地保全便益	57,595 千円
		環境保全便益	180,450 千円
		災害防止便益	1,272 千円
		計	358,048 千円
	分析結果（B/C）	2.22	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹荒廃地の状況や溪床の不安定土砂の堆積状況から放置すれば下流に土砂が流出するため、事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により山腹荒廃地の復旧と併せて土砂の流出が抑制されることから、事業は有効である。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコスト縮減にも努めていることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>うらさわ</small> ウラ沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的	<p>本地区は真室川町北部に位置しており、山腹崩壊地により保安林機能が低下したため、溪床に不安定土砂が堆積し、直下にある小学校等に被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、溪床の不安定土砂の流出を防止し、保安林機能の向上を図るための溪間工を実施する。</p> <p>事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	14,615 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	21,749 千円
		山地保全便益	9,603 千円
		環境保全便益	6,445 千円
		災害防止便益	710 千円
		計	37,797 千円
	分析結果（B/C）	2.59	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況や溪床の不安定土砂の堆積状況から放置すれば下流に土砂が流出するため、事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、土砂の流出が抑制されるなど下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコスト縮減にも努めていることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ぜんまいはたけさわ</small> ゼンマイ畑沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
事業の概要・目的	<p>当地区は戸沢村東部に位置しており、山腹崩壊地が発生し保安林機能が低下したため、溪床に不安定土砂が堆積し、直下にある農地等に被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、溪床の不安定土砂の流出を防止し、保安林機能の向上を図るための溪間工を実施する。</p> <p>事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	17,692 千円	
	総便益（B）	26,189 千円	
	水源かん養便益	26,189 千円	
	山地保全便益	12,488 千円	
	環境保全便益	千円	
	災害防止便益	1,649 千円	
	計	38,677 千円	
	分析結果（B/C）	2.19	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況や溪床の不安定土砂の堆積状況から放置すれば下流に土砂が流出するため、事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により土砂の流出が抑制されるなど下流域の保全等が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコスト縮減にも努めていることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<sup>かほきわ</sup> 樺沢 （山形県）	事業実施主体	東北森林管理局 置賜森林管理署
事業の概要・目的	<p>本地区は小国町南部に位置しており、山腹崩壊地が発生したため溪床に多量の不安定土砂が堆積し、下流の林道や農地に被害を及ぼす恐れがある。このため、山腹崩壊地の復旧と溪床の不安定土砂の流出を防止し、保安林機能の向上を図るための山腹工と溪間工を実施する。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.54ha 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	51,960 千円	
	総便益（B）	72,755 千円	
	水源かん養便益 山地保全便益 環境保全便益 災害防止便益 計	43,026 千円 千円 719 千円 115,781 千円	
	分析結果（B/C）	2.23	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地の状況や溪床の不安定土砂の堆積状況から放置すれば下流に土砂が流出するため、事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、土砂の流出が抑制されるなど下流域の保全等が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコスト縮減にも努めていることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	保安林管理道整備（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成20年度（5年間）						
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>くろたきさわ</small> 黒滝沢 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 秋田森林管理署						
事業の概要・目的	<p>本地区は田沢湖町南部に位置しており、森林が過密化により荒廃しつつあるとともに、溪床に不安定土砂が堆積し、下流の林道や夏瀬ダムに被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、保安林機能の維持・向上を図るための森林整備と溪間工を実施することとし、その実施に必要な路網を整備する。</p> <p>主な事業内容</p> <table> <tr> <td>保安林管理道</td> <td>1,800m</td> </tr> <tr> <td>森林整備</td> <td>112ha</td> </tr> <tr> <td>溪間工</td> <td>3基</td> </tr> </table>			保安林管理道	1,800m	森林整備	112ha	溪間工	3基
保安林管理道	1,800m								
森林整備	112ha								
溪間工	3基								
費用対効果分析	総費用（C）	127,509千円							
	総便益（B）								
	水源かん養便益	1,865,646千円							
	山地保全便益	732,954千円							
	環境保全便益	千円							
	災害防止便益	54千円							
	計	2,598,600千円							
	分析結果（B/C）	20.38							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 森林状況や溪床の不安定土砂の堆積状況から放置すれば下流に土砂が流出するため事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、土砂の流出が抑制されるなど下流域の保全等が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコスト縮減にも努めていることから、効率性は認められる。</li> </ul>								

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全対策モデル(国有林)	事業計画期間	平成16年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>たちまたさわ</small> 立又沢 (秋田県)	事業実施主体	東北森林管理局 米代東部森林管理署上小阿仁支署
事業の概要・目的	<p>本地区は阿仁町南部に位置しており、森吉山県立自然公園内として多くの滝があり登山者等の利用が図られている地域であるが、滝に隣接した山腹に崩壊地が発生し、このまま放置すれば保安林機能が低下し、下流の保全対象である林道や県道に被害を与える恐れがある。</p> <p>このため、奥地保安林内において資材運搬路作設が困難な箇所では現地発生材を活用した山腹工を行うモデル事業を実施することにより下流域への被害の防止と併せて保安林機能の効果を増大させることを目的とした。</p> <p>事業内容 山腹工 0.3ha</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	7,692 千円	
	総便益(B)	水源かん養便益 1,975 千円 山地保全便益 1,055 千円 環境保全便益 124,597 千円 災害防止便益 79 千円 計 127,627 千円	
	分析結果(B/C)	16.59	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊の状況から放置すれば下流に土砂が流出するとともに、景観に与える影響が大きいため、事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により土砂の流出が抑制されるなど下流域の保全等が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコスト縮減にも努めていることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	生活環境保全林整備（国有林）	事業計画期間	平成16年度～19年度（4年間）						
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>かせのまつぼら</small> 風の松原 （秋田県）	事業実施主体	東北森林管理局 米代西部森林管理署						
事業の概要・目的	<p>本地区は能代市西部に位置し、市街地と接しており、厳しい季節風や潮風、飛砂から生活を守る「防災の森」として、また、日常生活に密着した「身近な森」として利用されているが、近年の気象害や松くい虫の被害により保安林機能が低下している。 このため、気象害等により疎林となった箇所への植栽などの森林整備等と併せて生活環境保全機能等の向上を図る事業を実施する。</p> <p>主な事業内容</p> <table> <tr> <td>森林整備</td> <td>76ha</td> </tr> <tr> <td>管理車道</td> <td>460m</td> </tr> <tr> <td>管理歩道</td> <td>5,150m</td> </tr> </table>			森林整備	76ha	管理車道	460m	管理歩道	5,150m
森林整備	76ha								
管理車道	460m								
管理歩道	5,150m								
費用対効果分析	総費用（C）	264,908 千円							
	総便益（B）								
	水源かん養便益	千円							
	山地保全便益	千円							
	環境保全便益	593,683 千円							
	災害防止便益	6,121 千円							
	計	599,804 千円							
	分析結果（B/C）	2.26							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 気象害等により保安林の防災機能の低下が顕著であり、放置すれば更に疎林地の拡大、引いては森林性の消失が懸念されることから、保安林機能の維持・回復を図るため事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により、保安林の防災機能はもとより生活環境保全機能や保健機能が維持・向上することから事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 事業実施に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコスト縮減にも努めていることから、効率性は認められる。</li> </ul>								

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>かまのさわちく</small> 釜ノ沢地区 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 下北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、大畑町中心部を経て津軽海峡に注ぐ大畑川上流部に位置しているが、大畑川上流部では起伏のある地形が多く見られ、山腹斜面の崩壊等により溪床に堆積していた不安定土砂及び流木が豪雨等により海まで流出し、漁業に被害を与える災害が発生していた。</p> <p>このため、溪床に滞留している流木の流出防止及び溪岸の浸食防止に資する溪間工を実施し、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（鋼製スリットダム） 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	18,750	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益		千円
	災害防止便益	39,742	千円
	計	39,742	千円
	分析結果（B/C）	2.12	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に滞留する流木及び不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大及び流木の流出等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、流木の流出防止が図られるとともに、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ゆのさわちく</small> 湯ノ沢地区 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 下北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、大畑町中心部を経て津軽海峡に注ぐ大畑川上流部に位置しているが、大畑川上流部では起伏のある地形が多く見られ、山腹斜面の崩壊等により溪床に堆積していた不安定土砂及び流木が豪雨等により海まで流出し、漁業に被害を与える災害が発生した。 このため、溪床に滞留している流木の流出防止及び溪岸の浸食防止に資する溪間工を実施し、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（鋼製スリットダム） 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	17,308	千円
	総便益（B）		千円
	水源かん養便益		千円
	災害防止便益	147,045	千円
	計	147,045	千円
	分析結果（B/C）	8.50	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に滞留する流木及び不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大及び流木の流出等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、流木の流出防止が図られるとともに、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>たいこさわちく</small> 太古沢地区 （青森県）	事業実施主体	東北森林管理局 三八上北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、八戸市外4町村を経て太平洋に注ぐ五戸川上流部に位置しているが、火山噴出物の堆積層からなる脆弱な地質構造であり、平成14年の災害により地すべりが発生し、放置すれば下流域に被害を及ぼす恐れがあったため、15年度に緊急災害事業として集水井を施行し地すべりの要因である地下水の排水を図った。</p> <p>しかし、目標安全率を確保するまでには至らなかったため、引き続き対策工を行う必要があった。</p> <p>このため、本事業を実施し地すべり斜面の安定化を図り、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 抑制工（集水井） 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	46,967 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 8,531 千円 災害防止便益 173,349 千円 計 181,880 千円	
	分析結果（B/C）	3.87	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 地すべりの要因である地下水の排水をせず、目標安全率を確保しなければ被害の拡大が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>むめいのさわちく</small> 無名ノ沢地区 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 三陸北部森林管理署 久慈支署
事業の概要・目的	<p>当地区は、陸中海岸に注ぐ上流部に位置しているが、土質は、比較的安定した地質を呈しているものの土層深度が浅いため豪雨の都度溪岸の崩壊等により森林の被害、崩壊土砂の流出が発生した。 このため、崩壊等により溪床に堆積する不安定土砂の流出防止及び溪岸の浸食防止に資する溪間工を実施し、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（コンクリート谷止工） 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	12,500	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	1,795	千円
	災害防止便益	22,939	千円
	計	24,734	千円
	分析結果（B/C）	1.98	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>みずわけさわちく</small> 水分沢地区 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 盛岡森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、宮城県を経て太平洋に注ぐ北上川中流部の支流に位置しているが、火山泥流の堆積層からなる脆弱な地質構造であり、豪雨の都度山腹斜面の崩壊により森林の被害、崩壊土砂の流出が発生していた。 このため、崩壊等により溪床に堆積する不安定土砂の流出防止及び溪岸の浸食防止に資する溪間工を実施し、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（コンクリート谷止工） 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	39,534 千円	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	7,037 千円	
	災害防止便益	255,815 千円	
	計	262,852 千円	
	分析結果（B/C）	6.65	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>あてらくさわちく</small> 当楽沢地区 （岩手県）	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、宮城県を経て太平洋に注ぐ北上川中流部の支流に位置しているが、土質は、比較的安定した地質を呈しているものの土層深度が浅いため豪雨の都度山腹斜面の崩壊により森林の被害、崩壊土砂の流出が発生した。 このため、崩壊等により溪床に堆積する不安定土砂の流出防止及び溪岸の浸食防止に資する溪間工を実施し、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（コンクリート谷止工） 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	33,839 千円	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	7,867 千円	
	災害防止便益	55,963 千円	
	計	63,830 千円	
	分析結果（B/C）	1.89	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	地すべり(国有林)	事業計画期間	平成16年度～平成19年度(4年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>おほかさわちく</small> オボ力沢地区 (岩手県)	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、宮城県を経て太平洋に注ぐ北上川中流部の支流に位置しているが、火山噴出物の堆積層からなる脆弱な地質構造であり、平成14年の災害により地すべりが発生し、放置すれば下流域に被害を及ぼす恐れがあったため、15年度に緊急災害事業として集水井を施行し地すべりの要因である地下水の排水を図った。</p> <p>しかし、目標安全率を確保するまでには至らなかったため、引き続き対策工を行う必要があった。</p> <p>このため、本事業を実施し地すべり斜面の安定化を図り、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 抑制工(集水井) 2基 溪間工(コンクリート谷止工) 2基</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	181,829	千円
	総便益(B)		
	水源かん養便益		千円
	山地保全便益	331,887	千円
	計	331,887	千円
	分析結果(B/C)	1.83	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 地すべりの要因である地下水の排水をせず、目標安全率を確保しなければ被害の拡大が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

# 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>みなみさわちく</small> 南沢地区 （宮城県）	事業実施主体	東北森林管理局 仙台森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、仙台市の中心部を経て太平洋に注ぐ広瀬川上流部に位置しているが、火山噴出物の堆積層からなる脆弱な地質構造であり、平成14年の災害により発生した多量の土砂が下流域に被害を及ぼす恐れがあったため、15年度に緊急災害対策工事を実施した。</p> <p>しかしながら、溪床にはまだ多くの不安定土砂が堆積し、下流域に被害を及ぼすことが引き続き懸念されていた。</p> <p>このため、崩壊等により溪床に堆積する不安定土砂の流出防止及び溪岸の浸食防止に資する溪間工を実施し、水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（コンクリート谷止工） 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	42,751 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 9,320 千円 災害防止便益 119,901 千円 計 129,221 千円	
	分析結果（B/C）	3.02	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば土石流災害の発生等が懸念されることから、水土保全機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保全機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>おいせさわちく</small> 御伊勢沢地区 （宮城県）	事業実施主体	東北森林管理局 仙台森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、仙台市の中心部を経て太平洋に注ぐ広瀬川上流部に位置しているが、土質は、比較的安定した地質を呈しているものの土層深度が浅いため豪雨の都度溪岸の崩壊等により森林の被害、崩壊土砂の流出が発生した。 このため、崩壊等により溪床に堆積する不安定土砂の流出防止及び溪岸の浸食防止に資する溪間工を実施し、水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工（コンクリート谷止工） 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	11,538 千円	
	総便益（B）		
	水源かん養便益	3,802 千円	
	災害防止便益	18,070 千円	
	計	21,872 千円	
	分析結果（B/C）	1.90	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪岸崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	白子川 （福島県）	事業実施主体	関東森林管理局 棚倉森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福島県南部に位置し、久慈川上流、白子川の山腹斜面に当たり、平成15年の集中豪雨等により山腹崩壊が発生し、直下の白子川に崩落土砂が川を堰止めるように堆積し、川がダムアップした。川に堆積した土砂は取り除いたが流出土砂は下流農業用水取水口まで達した。崩壊斜面には転石等が浮いている状態で、今後の降雨等により再崩壊し、土石流による下流域への被害が危惧されるので、崩壊地の復旧を実施し、民生安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 特殊モルタル吹付工</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	4,817千円	
	総便益（B）	1,729千円	
	水源かん養便益 山地保全便益 環境保全便益 災害防止便益 計	0千円 0千円 28,433千円 30,162千円	
	分析結果（B/C）	6.26	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：崩壊地からの落石は、その後の降雨によっても見受けられるので、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当事業の実施により、崩壊地からの落石による被害の防止が図られることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に応じ最も効果的、効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成25年度（10年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>さんになだちがわ</small> 三人立河原 （栃木県）	事業実施主体	関東森林管理局 日光森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、栃木県北東部、男体山より東に連なる日光連山の一つ、大真名子山より流下する荒沢支流三人立河原の中流部に位置している。 山腹崩壊の発生により、溪床には不安定土砂が堆積しており、現在ではこの堆積土砂の二次浸食も始まっており、今後の降雨等による流出土砂によって下流域に被害が拡大する恐れがあるため、崩壊した山腹及び荒廃溪流の復旧を実施し、民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容  溪間工 2基  山腹工 1.0ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	348,334千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 14,963千円 山地保全便益 0千円 環境保全便益 0千円 災害防止便益 611,578千円 計 626,541千円	
	分析結果（B/C）	1.80	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹が脆弱であるため、降雨のたびに崩壊地が拡大し溪床には不安定土砂の堆積があり、降雨による土砂の流出もみられることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性：当事業の実施により、山腹斜面が安定し崩壊の拡大が抑止され、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：計画に当たっては、現地に応じ最も効果的かつ効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）										
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>はんやまかわ</small> 半山川 （新潟県）	事業実施主体	関東森林管理局 下越森林管理署										
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、新潟県中条町東部に位置し、舟戸川支流半山川の中流部に当たり、山腹崩壊の発生により、溪床には不安定土砂や流木が堆積している。今後の降雨等により、それらの流出に伴い下流域に被害を及ぼすおそれがあるため、荒廃溪流の復旧を実施し、保安林機能の向上と併せ、民生安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基</p>												
費用対効果分析	総費用（C）	34,615千円											
	総便益（B）	<table border="0"> <tr> <td>水源かん養便益</td> <td>8,346千円</td> </tr> <tr> <td>山地保全便益</td> <td>0千円</td> </tr> <tr> <td>環境保全便益</td> <td>0千円</td> </tr> <tr> <td>災害防止便益</td> <td>228,366千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>236,712千円</td> </tr> </table>		水源かん養便益	8,346千円	山地保全便益	0千円	環境保全便益	0千円	災害防止便益	228,366千円	計	236,712千円
	水源かん養便益	8,346千円											
山地保全便益	0千円												
環境保全便益	0千円												
災害防止便益	228,366千円												
計	236,712千円												
分析結果（B/C）	6.84												
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に不安定土砂の堆積があり、降雨による土砂の流出もみられることから過去に下流へ被害を及ぼした経緯もあることから、当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>												

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>おくきぬほんさわ</small> 奥鬼怒本沢 （栃木県）	事業実施主体	関東森林管理局 日光森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、栃木県北西部に位置し、鬼怒川本流コザ池沢上流部本沢に当たり直下には民有林林道奥鬼怒林道が通過している。溪床は急峻で上流部の山腹表面の崩落等により溪流に不安定土砂が堆積しており、豪雨のたびに土砂が林道へ流出し通行に支障をきたしている。今後も降雨等により林道及び下流域に被害が拡大する恐れがあるため、荒廃溪流の復旧と民生の安定を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	22,500千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 16,601千円 山地保全便益 0千円 環境保全便益 0千円 災害防止便益 23,845千円 計 40,446千円	
	分析結果（B/C）	1.80	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に不安定土砂の堆積があり、豪雨による土砂の流出がみられ、地元関係者より強い要望もあることから当該事業の実施は必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床に堆積する土砂の安定が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから、有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 計画に当たっては、現地に応じ最も効果的かつ効率的な工種を選定しており、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	水源森林総合整備（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成20年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	さとみ 里美 （茨城）	事業実施主体	関東森林管理局 茨城森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、茨城県の最北端の久慈郡に位置し、付近一帯の森林は、国有林・民有林を問わず水源かん養保安林に指定されている。 機能類型区分は、水土保持林に区分され、国土保全タイプが15%、水源かん養タイプが85%の内訳となっており、水源かん養機能の高度発揮が期待される森林である。 下流集落の生活用水及び農業用水は、国有林及びこれに隣接する民有林から供給される水に依存しており、隣接民有林においては、同種事業を平成12年度から平成15年度に掛けて実施し、平成16年度からは、県単事業として森林整備の実施が予定されている。 当事業においては、過密で保安林機能が低下している林分について、森林整備を推進しながら、併せて水土保持施設も構築することにより、水土保持機能の維持向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p>溪間工（併せて浸透促進工）11基、山腹工 0.03ha、管理車道 900m、本数調整伐 196ha 丸太柵工 2,500m等</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	226,474千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 2,175,480千円 山地保全便益 1,446,660千円 計 3,622,140千円	
	分析結果（B/C）	15.99	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 森林の荒廃状況から、放置すれば森林の荒廃が進み水土保持機能の低下が懸念されることから、当事業の実施が必要である。 また、地元からも、当事業の実施について、強く要請されている。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃森林の復旧が図られ公益的機能の維持向上が図られることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成20年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ほんたに 本谷 （山梨）	事業実施主体	関東森林管理局 山梨森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>当地区は、山梨県の南部に位置し、水源かん養保安林に指定されており、機能類型は、水土保持林の水源かん養タイプに区分されている。</p> <p>当該地域は、静岡～糸魚川構造線等の影響を受け、地形が急峻で、地質が脆弱なため、積年の崩壊により溪床には、不安定土砂が堆積しているため、今後の降雨によっては、堆積している不安定土砂が流出し、下流集落、発電ダム等に被害を与える恐れがある。</p> <p>このため、溪床に堆積している不安定土砂を抑制し、国土保全機能の維持向上を図るため実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 5基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	159,540千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	80,002千円
		山地保全便益	754,169千円
		計	834,171千円
	分析結果（B/C）	5.23	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば下流域への土砂流出が懸念されることから、水土機能の維持増進を図るため当事業の実施の必要がある。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂の抑制が図られ、土砂流出の恐れが低減されることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成20年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	いりちさわ 入地沢 （静岡）	事業実施主体	関東森林管理局 天竜森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、水源かん養保安林に指定されており、機能類型区分は、水土保持林の水源かん養タイプに区分されている。</p> <p>平成14年6月の集中豪雨（136mm/日）により新生崩壊地（0.5ha）が発生し、崩壊した土砂が不安定な状態で堆積しているため、このまま放置すると今後降雨等により下流に流出する恐れがある。</p> <p>このため、この崩壊箇所に山腹工を実施し、再崩壊を防ぐとともに、保安林機能の維持増進を図るものである</p> <p>主な事業内容</p> <p>山腹工 0.50ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	116,787千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	98,826千円
	山地保全便益	1,224,055千円	
	計	1,322,881千円	
	分析結果（B/C）	11.33	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、水土保持機能の維持向上のため当事業の実施の必要がある。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹崩壊地の復旧が図れ、下流域の保全や水土保持機能が維持向上されることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成20年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	こがねさわ コガネ沢 （静岡）	事業実施主体	関東森林管理局 天竜森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、水源かん養保安林に指定されており、機能類区分は、水土保持林の水源かん養タイプに区分されている。</p> <p>平成12年7月の集中豪雨（165mm/日）により5箇所に崩壊地（1.20ha）が発生し、崩壊した土砂が不安定な状態で堆積しており、今後降雨等により下流に流出する恐れがある。</p> <p>このため、この崩壊箇所に山腹工を実施し、再崩壊を防ぐとともに、保安林機能の維持増進を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p>山腹工 1.20ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	133,555千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	70,227千円
		山地保全便益	1,189,082千円
	計	1,259,309千円	
	分析結果（B/C）	9.43	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、水土保持機能の維持向上のため当事業の実施の必要がある。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、山腹荒廃地の復旧が図られ、下流域の保全や水土保持機能が維持向上されることから、事業の有効性は認められる</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>しるさわ</small> 白沢 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 中信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、豪雨時の洪水によって、溪流が縦横侵食されて発生した土砂が、既設の溪間工を越流流出し、下流の歩道は豪雨のたびに被害を受けている。この歩道は上高地の明神池への周遊コースとして、また、穂高連峰等へ通じていることから、年間約200万人もの入り込み客が利用している。下流は上高地集団施設地区に近く、宿泊施設等が点在している。</p> <p>流域内には、新しいマサを主とする流出砂礫が扇状地を形成しており、上流では岩屑の生産やガリの発達著しく、荒廃危険度が高いことから降雨のたびに砂礫が流出し、溪床内に不安定に堆積している。</p> <p>放置すると、今後の集中豪雨や台風などにより、多量の土砂が流出し、歩道だけでなく下流の上高地集団施設地区にも被害を及ぼす危険性が高いことから、早期に谷止工を施工し、溪床の固定により下流域の保全を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 4基（鋼製自在枠谷止工 52t）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	68,417千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 7,941千円 災害防止便益 449,239千円 計 457,180千円	
	分析結果（B/C）	6.68	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：豪雨時等に溪床の縦横侵食により流下した土砂が、溪床内に不安定に堆積し、今後の集中豪雨時等に流出し下流の上高地集団施設地区等に被害を与える恐れが高いことから、溪床を固定し下流域の保全を図るもので、必要性は認められる。</li> <li>・有効性：本事業の実施により、不安定土砂流出の抑止による下流域の保全と、200万人からの入り込み者等の安全が図られ、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の検討に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が計画されており、費用対分析結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規箇所採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、効率的な事業の計画がなされていると認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>しもたきさわ</small> 下滝沢 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 中信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、急峻な溪流であり、平成8年8月の豪雨により土石流が、発生し下流の県道白馬岳線を通行止めとする災害が発生した。県道白馬岳線は年間25万人もの利用者のある道路である。</p> <p>平成9年までに溪間工6基を階段状に設置し、土石流抑止の効果を上げてきた。しかし急峻な地形により、溪流内の縦侵食が予想以上に激しく、昭和45年施工NO5谷止工が洗堀を受け不安定な状況になりつつあることから、下流域を保全する溪間工を早期に施工し、溪流の縦侵食防止と勾配緩和により溪流の安定を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	40,385千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	575千円
	災害防止便益	340,474千円	
	計	341,049千円	
	分析結果（B/C）	8.44	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：溪流の縦侵食が進行し、既設の溪間工や下流域への被災が危惧される状況から、溪間工を施工して縦侵食を防止し溪流を安定化して下流域の保全を図るもので、必要性は十分に認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、溪床の縦侵食を防止し、溪床勾配を緩和、溪流の安定により下流域の保全が図られ、有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の検討に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が計画されており、費用対効果分析結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規箇所採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、効率的な事業の計画がなされていると認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山(国有林)	事業計画期間	平成16年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	霧久保沢地区 (長野県)	事業実施主体	中部森林管理局 東信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、茂来山の北東斜面に展開し、下流の霧久保沢、さらには抜井川に流下する流域である。四方原林道の霧久保沢上流は、岩盤溪床が連続しているが、下流は溪岸浸食が進行し、溪床内には不安定土砂が堆積している。降雨等により不安定土砂が流下し下流域に被害を与える危険性が増しつつあることから、下流への土砂流出の防止と保全を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	11,538千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	1,368千円
		災害防止便益	68,346千円
	計	69,714千円	
	分析結果(B/C)	6.04	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：経年変化により溪間の縦横浸食が進行して、不安定土砂の堆積・流下が見られ、下流域に被害を与える恐れが高まったことから実施するもので、必要性は認められる。</li> <li>・有効性：不安定土砂の流出防止と縦横浸食防止による山脚固定で、森林の持つ水源かん養機能の向上と下流域の保全が図られ、有効性は十分に認められる。</li> <li>・効率性：対策工は現地の状況に最も効果的かつ効率的な工種・工法で計画されており、費用対効果分析結果からも効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて、総合的かつ客観的に検討したところ、保安林の目的である森林の持つ公益的機能の高度発揮等が増進するよう、効率的な計画がなされていると認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	せんがたきさわにしちく 千ヶ滝沢西地区 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 東信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、浅間山山頂から東側の中軽井沢へと続く裾野一帯に位置し、主たる溪流である千ヶ滝沢の西にある小溪流で、軽井沢町内に流下している。 この下流域は、浅間養鱒場をはじめ保養施設等が密集しており、四季を通じ観光客の入り込みが絶えない地域であり、局所防災及び自然環境保全の必要性が極めて高い。 当溪流内は火山性土壌で溪岸浸食が進行し易く、不安定土砂が流下しており、下流域に被害を与える危険性が増しつつあることから、縦横浸食の防止と下流への土砂流出の抑止を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	12,500千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,048千円
		災害防止便益	77,612千円
		計	78,660千円
	分析結果（B/C）	6.29	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：経年変化により溪間の縦横浸食が進行して、不安定土砂の堆積・流下が見られ、下流域に被害を与える恐れが高まったことから実施するもので、必要性は認められる。</li> <li>・有効性：不安定土砂の流出防止と縦横浸食防止による山脚固定で、森林の持つ水源かん養機能の向上と下流域の保全が図られ、有効性は十分に認められる。</li> <li>・効率性：対策工は現地の状況に最も効果的かつ効率的な工種・工法で計画されており、費用対効果分析結果からも効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて、総合的かつ客観的に検討したところ、保安林の目的である森林の持つ公益的機能の高度発揮等が増進するよう、効率的な計画がなされていると認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	生活環境保全林整備（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	湯の丸地区 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 東信森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は上信越高原国立公園の中央に位置し、亜高山帯でありながら、コマクサ等の高山性植物から低山性の植物までが混生する貴重な区域で、1,000種類を越えると言われる高山植物の宝庫であり、加えて全国でも数少ないカラマツ天然林も見られる。</p> <p>また、周辺にはキャンプ場、スキー場等が整備され、さらに高速道路・新幹線等交通網が発達しアクセスも良好なことから、四季を通して入り込み者が多い。一方、隣接して黒ザレといわれる火山他噴出物層の大荒廃地があり、下流域保全上から森林整備等による保安林機能の維持向上が重要な地域である。このため、森林整備を実施し、森林の持つ公益的機能の維持向上による下流域の保全と、併せて豊かな生活・自然環境の保全創出を図るものである。</p> <p>主な事業内容            自然林造成（保育・除伐等）22.5ha    自然林改良（自然林改良A）15.0ha            自然林改良（自然林改良B）20.0ha    管理歩道（歩道）3,251m、（木道）185m            防火施設（防火灌水施設）0.2ha    その他（掲示板等）1式</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	35,108千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	177,091千円
		山地保全便益	85,564千円
		環境保全便益	245,050千円
	計	507,705千円	
	分析結果（B/C）	14.46	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：火山噴出物からなる荒廃危険地域の森林整備による下流域保全と、併せて周辺の生活・自然環境の保全創出を図るもので、必要性は十分に認められる。</li> <li>・有効性：植林、保育等の森林整備により良好な森林環境の創出が見込まれ、土砂流出の防止等による下流域保全や保健休養機能の向上等には有効な事業と認められる。</li> <li>・効率性：現地の状況に最も適した工種が計画されており、費用対効果分析結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価輪踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、保安林の持つ公益的機能の高度発揮等が増進するよう、効率的な計画がされていると認める。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	おぎそ 小木曾12 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は木曾川の最上流に位置する。平成14年7月の台風の豪雨により崩壊地が発生して、林道が大きく被災し土砂は味噌川まで流下して不安定に堆積した。</p> <p>この流域は愛知用水の水瓶である味噌川ダムの上流域であるので良質な水資源確保が求められている。</p> <p>新生崩壊地については国有林野内直轄災害関連緊急事業により15年度に施工したが、溪流内の不安定土砂を放置すると下流に被害を与える恐れがあることから、土砂流出を抑止し、水源かん養機能の向上とダム堆砂抑制及び林道の保全等を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	32,064千円	
	総便益（B）	・水源かん養便益	11,047千円
		・災害防止便益	65,336千円
		計	76,383千円
	分析結果（B/C）	2.38	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：台風災害により発生した崩壊地に伴う災害復旧対応残である溪床に堆積する不安定土砂を抑止し下流域の保全を図るもので、必要性は十分に認められる。</li> <li>・有効性：不安定土砂の流出防止並びに山脚の固定により、森林の持つ水源かん養機能の向上と、下流域の保全が図られ、有効性は十分に認められる。</li> <li>・効率性：対策工の実施にあたっては、現地の状況に最も効果的かつ効率的な工種工法が計画されており、費用対効果分析結果からも効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）並びに費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて、総合的かつ客観的に検討したところ、保安林の目的である森林の持つ公益的機能の高度発揮等が増進するよう、効率的な計画がされている。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成21年度（6年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	やまわいり 八沢入2 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は木曾川支流の八沢川の上流域である。平成15年4月の集中豪雨により、復旧しつつあった古い崩壊跡地が拡大崩壊し、土砂が流下したことから、放置すると今後の豪雨時等には拡大崩壊並びに土砂流出の恐れがある。</p> <p>また、当地区の下流域には人家もあり、加えて木曾福島町の水源地である。山腹崩壊地の復旧整備をし、上流域からの土砂流出防止及び良質な水資源の確保を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.47ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	78,698千円	
	総便益（B）	・水源かん養便益 5,485千円 ・災害防止便益 298,880千円 計 304,365千円	
	分析結果（B/C）	3.87	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：集中豪雨によ発生した拡大崩壊地の再崩壊及び土砂流出の危険があり復旧整備により土砂流出防止と保安林の機能回復を図るもので、必要性は十分認められる。</li> <li>・有効性：山腹工の実施により植生の回復が図られ、土砂流出防止と保安林の機能回復が見込まれることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の実施にあたっては、現地の状況に最も効果的かつ効率的な工種工法が計画されており、費用効果分析結果からも効率性は認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）並びに費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて、総合的かつ客観的に検討したところ、保安林の目的である森林の持つ公益的機能の高度発揮等が増進するよう、効率的な計画がされている。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成19年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	こまたがわ 小俣川（ ） （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、地質が風化した上松花崗岩および濃飛流紋岩で、地形が急峻なことから崩壊が発生しやすい。 平成14年7月の台風の豪雨により新生崩壊地が発生し林道等に被害を与えるとともに下流に土砂を流出した。 放置すると今後の豪雨等で崩壊地の拡大が進み、土砂の流出により下流域に被害を及ぼす恐れが高いことから、早急に崩壊地を復旧し森林造成の基盤整備と土砂生産を抑制し、森林の持つ公益的機能の増進と土砂流出防止により下流域の保全を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1.44 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	84,138千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	18,785千円
	山地保全便益	234,141千円	
	計	252,926千円	
	分析結果（B/C）	3.01	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：放置すると今後の豪雨等で崩壊地の拡大が進み、土砂の流出により下流域に被害を及ぼす恐れが高いことから、早急に崩壊地を復旧し森林造成の基盤整備と土砂生産を抑制し、森林の持つ公益的機能の増進と土砂流出防止による下流域の保全を図るため実施するもので、必要性は十分に認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、土砂生産の抑止及び森林生育基盤の造成と、下流域の保全が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な施設の整備が検討されており、費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（治山）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>しもいりやまさわ</small> 下入山沢 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、寒冷多雨の山岳気象で、豪雨・豪雪などの要因で崩壊が発生しやすく、平成14年7月の台風の豪雨により溪床内に多量の土砂が不安定に堆積している。</p> <p>放置すると今後の豪雨時等にはこの不安定堆積土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高まったため、早期に治山ダムを施工し、不安定土砂の抑止と山脚の固定による下流域の保全を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 谷止工 1基 381.7m<sup>3</sup></p>		
費用対効果分析	総費用（C）	24,038千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,314千円
		災害防止便益	45,624千円
		計	48,938千円
	分析結果（B/C）	2.04	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：放置すると今後の豪雨時等にはこの不安定堆積土砂が流出し下流に被害を与える恐れが高まったため、早期に治山ダムを施工し、不安定土砂の抑止と山脚の固定により、下流域の保全を図るため実施するもので、必要性は十分に認められる。</li> <li>・有効性：本事業を実施することにより、不安定堆積土砂の安定及び山脚の固定が図られることから、下流域の保全、公益的機能の発揮の上でも有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な施設の整備が検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成19年度（4年間）						
事業実施地区名 （都道府県名）	からさわ カラ沢 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署						
事業の概要・目的	<p>当地区は、うぐい川からマユミ沢に沿って真弓断層が走っていることや、地質が風化した濃飛流紋岩で、地表面に空隙が生じやすいことから、崩壊が発生しやすい。</p> <p>平成14年7月の台風の豪雨により、新生崩壊地が発生して林道等に被害を与えたとともに、下流に土砂を流出した。</p> <p>今後の降雨等で崩壊地の拡大が進み、溪床に堆積する不安定土砂も含めた流出により、下流域に被害を与える恐れが高いことから、早急に崩壊地の復旧と森林造成の基盤整備し、水源かん養機能等森林の持つ公益的機能の増進と、下流への土砂流出を防止して下流の保全等を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table> <tr> <td>谷止工</td> <td>1基</td> <td>300.0m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>0.68</td> <td>ha</td> </tr> </table>			谷止工	1基	300.0m <sup>3</sup>	山腹工	0.68	ha
谷止工	1基	300.0m <sup>3</sup>							
山腹工	0.68	ha							
費用対効果分析	総費用（C）	80,784千円							
	総便益（B）	水源かん養便益	14,294千円						
	山地保全便益	178,136千円							
	計	192,430千円							
	分析結果（B/C）	2.38							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：今後の降雨等で崩壊地の拡大が進み、溪床に堆積する不安定な土砂を含めた流出により、被害を与える恐れがあるため、実施するものであり、必要性は十分に認められる。</li> <li>・有効性：本事業の実施により、土砂生産の抑止及び森林生育基盤の造成が図られることから、下流域の保全、公益的機能の発揮の上でも有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては現地の状況に応じた最も効果的かつ効率的な施設の整備が検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進と下流への土砂流出防止が効率的に計画されているものと認められる。</p>								

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>いながわ</small> 伊奈川 - 30 （長野県）	事業実施主体	中部森林管理局 木曾森林管理署南木曾支署
事業の概要・目的	<p>本箇所は、崩壊性の高い風化花崗岩からなる地質構造で、昭和34年伊勢湾台風による風倒木災害、昭和41年の南木曾災害をはじめとし、度重なる集中豪雨により山地荒廃が進行している。</p> <p>また、溪流においては土石流発生の原因となる土砂が残留し、中小の豪雨によって溪流へ流出する危険性がある。</p> <p>渓床内に不安定に堆積している土砂礫の流出を抑止固定し、渓床勾配を緩和させ、縦横浸食の防止を図るため、本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 渓間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	28,846 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,432 千円
		災害防止便益	65,336 千円
	計	67,768 千円	
	分析結果（B/C）	2.35	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：花崗岩地帯で崩壊地が発生しやすい地域であり、国土保全・水源かん養等の公益的機能を高度発揮させるための事業であり必要性が認められる。</li> <li>・有効性：不安定土砂の抑止、山脚の固定を図ると共に、土石流等の有害土砂による下流への被害を軽減し、公益的機能を持続的に発揮させるための事業であり有効性が認められる。</li> <li>・効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析等の評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、効率性の面からも事業実施が妥当と認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	こじょうさん（しんたに）ちく 古城山（新谷）地区 （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 岐阜森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、美濃市北部に位置し、平成14年7月に発生した台風6号がもたらした集中豪雨により、林内の山腹斜面が崩壊地し、渓床には不安土砂が堆積して る。 このため、下流には東海北陸自動車道、県道、人家等重要な保全対象も近接することから、水土保全機能の維持・向上に努め、災害を未然に防ぐものである。</p> <p>主な事業内容 渓間工 1（基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	15,385 千円	
	総便益（B） 災害防止便益	107,879 千円	
	計	107,879 千円	
	分析結果（B / C）	7.01	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 渓床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば土石流の発生が懸念されることから、下流域の保全等のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、渓床の不安定土砂の安定等により下流域の保全等が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	生活環境保全林整備（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	とうどさんちく 東殿山地区 （岐阜県）	事業実施主体	中部森林管理局 岐阜森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は郡上郡八幡町南部に位置し、奥長良川県立自然公園とレクリエーションの森（風景林）に指定されている。また、郡上踊りの一節にも謳われるなど景観上重要な位置を占め、林相は長良川流域では希少なヒノキを主とする高齢級の天然林である。林内には東殿山城跡などの歴史的遺構があることから、入り込み者も年々増加の傾向にあり、保健休養や森林の重要性をPRする機能が強く、地元八幡町も当地区を森林レクリエーション等で活用したい意向を持っている。</p> <p>しかしながら山頂付近や谷筋には、枯死木や雪害木も多くあり、自然林造成及び自然林改良等の森林整備を実施し、保安林機能を高め国土保全機能を保ちつつ附帯施設の整備等により、地域住民の保健休養及び生活環境の浄化を図るものである。</p> <p>主な事業内容 森林整備 17.28 (ha) 付帯施設 管理歩道・簡易作業施設・掲示板・防火灌水施設</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	60,163 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	280,316 千円
		山地保全便益	274,032 千円
		環境保全便益	11,395 千円
	計	565,743 千円	
	分析結果（B / C）	9.40	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山頂付近や谷筋には、枯死木や雪害木も多くあり、森林整備の実施により保安林機能を高め国土保全機能を保つこと及び自然に親しむ意識の高揚等から入込者の増加も予想され、附帯施設の整備が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、保安林機能を高め国土保全機能を保ちつつ附帯施設の整備等により、地域住民の保健休養及び生活環境の浄化が図れる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	くりすちく 栗栖地区 （愛知県）	事業実施主体	中部森林管理局 愛知森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>当地区は、犬山市北西部に位置し、強風により立木及び樹根が揺れ、岩盤の一部が剥離し落石が発生した。直下には人家もあり、放置しておくとなかなか衝撃を受けても亀裂が生じ、再度落石や山腹斜面が崩壊する危険性が高い。</p> <p>このため、山腹崩壊の拡大防止及び法面を安定させ、下流の保全を図るものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.04（ha）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	3,846 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	346 千円
		災害防止便益	23,114 千円
		計	23,460 千円
	分析結果（B / C）	6.10	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹斜面の崩壊状況から、放置すれば更に拡大が懸念されることから、下流域の保全等、保安林機能の発揮のため事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により崩壊地の復旧が図られ、下流域の保全等が図られることから有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）				
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>にしかわちく</small> 西川地区 （愛知県）	事業実施主体	中部森林管理局 愛知森林管理事務所				
事業の概要・目的	<p>当地区は、北設楽郡設楽町西部に位置し、平成12年9月の集中豪雨により、山腹斜面が崩壊し、河床に土砂が異常堆積し、降雨の都度に土砂が流出している。</p> <p>このため、山腹崩壊地の拡大及び河床に不安定に堆積している土砂や倒木の流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <table> <tr> <td>山腹工</td> <td>0.05 (ha)</td> </tr> <tr> <td>溪間工</td> <td>1 (基)</td> </tr> </table>			山腹工	0.05 (ha)	溪間工	1 (基)
山腹工	0.05 (ha)						
溪間工	1 (基)						
費用対効果分析	総費用（C）	28,332 千円					
	総便益（B）	水源かん養便益	4,991 千円				
		災害防止便益	52,587 千円				
		計	57,578 千円				
	分析結果（B / C）	2.03					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊の拡大及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば土石流の発生が懸念されることから、下流域の保全等のため事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床の不安定土砂の安定等により下流域の保全等が図られることから有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>						

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	富貴沢支流地区 （愛知県）	事業実施主体	中部森林管理局 愛知森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>当地区は、額田郡額田町東部に位置し、地域一帯は、本宮山県立自然公園に指定され、四季を通じて入込み者が多い。しかしながら、渓床には不安定土砂及び転石、流木が堆積している箇所がある。</p> <p>このため、不安定に堆積している土砂等の流出を防止し、災害を未然に防ぐものである。</p> <p>主な事業内容 渓間工 1（基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	19,038 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	4,371 千円
		災害防止便益	34,973 千円
		計	39,344 千円
	分析結果（B / C）	2.07	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 渓床に堆積する不安定土砂等の状況から、放置すれば土石流の発生が懸念されることから、下流域の保全等のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、渓床の不安定土砂の安定等により下流域の保全等が図られることから有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	みつまたにちく 三又谷地区 （愛知県）	事業実施主体	中部森林管理局 愛知森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>当地区は、額田郡額田町東部に位置し、平成12年9月の集中豪雨により、溪岸侵食が発生し、溪床に不安定土砂が堆積した。 このため、不安定に堆積している土砂の流出を防止し、災害を未然に防ぐものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1（基）</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	8,846 千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	2,813 千円
		災害防止便益	23,114 千円
		計	25,927 千円
	分析結果（B / C）	2.93	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂等の状況から、放置すれば土石流の発生が懸念されることから、下流域の保全等のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、溪床の不安定土砂の安定等により下流域の保全等が図られることから有効性が認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		

# 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16～18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	宮妻谷地区 <small>みやつまだにちく</small> （三重県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 三重森林管理署
事業の概要・目的	<p>宮妻谷地区は、三重県四日市市の内部川上流に位置する冠山国有林内の地区を対象としている。                  当地区は、自然環境の維持、保全及び土砂流失の防備等公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高い箇所であるが、豪雨による山腹崩壊箇所の拡大並びに崩壊土砂の流出が続いている。                  本事業は、これらの要請に応えながら、不安定土砂の移動を抑止し、下流域の保全並びに水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 5基 1,816 m<sup>3</sup></p>		
費用対効果分析	総費用（C）	89,645千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	67,652千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	103,329千円
		計	170,981千円
	分析結果（B / C）	1.91	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、また不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保全機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により保安林機能の増大が図られること、地元からも保安林機能の発揮が期待されていることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ふかたにかわちく</small> 深谷川地区 （三重県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 三重森林管理署
事業の概要・目的	<p>深谷地区は、三重県一志郡美杉村深谷川上流に位置する深谷国有林内の地区を対象としている。          当地区は、自然環境の維持、保全及び水源かん養等公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高い箇所であるが、既設のえん堤はすべて満砂状態で、土砂の流出が続いている。          本事業は、これらの要請に応えながら、不安定土砂の移動を抑止し、下流域の保全並びに水土保全機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 397 m<sup>3</sup></p>		
費用対効果分析	総費用（C）	31,346千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	23,159千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	41,332千円
		計	64,491千円
	分析結果（B / C）	2.06	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば土石の流出による災害が懸念され、下流域の保全等水土保全機能の発揮のため本事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により溪床に堆積する土砂の安定など下流域の保安等が図られることから事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により土砂流出等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

# 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	あますがわちく 天増川地区 （滋賀県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 滋賀森林管理署
事業の概要・目的	<p>天増川地区は、滋賀県高島郡今津町の天増川上流に位置する荒谷山国有林内の地区を対象としている。                  当地区は、自然環境の維持、保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高く、豪雨による不安定土砂の流出が続いている。                  本事業は、これらの要請に応えながら、崩壊地の拡大防止、不安定土砂の移動を抑止し、下流域の保全・保安林機能の増進を図ることを目的として本事業を計画した。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基 347 m3</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	19,327千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 3,187千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 34,973千円 計 38,160千円	
	分析結果（B / C）	1.97	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、また不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により保安林機能の増大が図られること、地元からも保安林機能の発揮が期待されていることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	奥山648地区 （兵庫県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 兵庫森林管理署
事業の概要・目的	<p>奥山648地区は、兵庫県養父郡大屋町の横行川上流に位置する奥山国有林内の地区を対象としている。          当地区は、自然環境の維持、保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高く、豪雨による不安定土砂の流出が続いている。          本事業は、これらの要請に応えながら、崩壊地の拡大防止、不安定土砂の移動を抑止し、下流域の保全・保安林機能の増進を図ることを目的として本事業を計画した。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1箇所 0.04 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	16,827千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,175千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	52,459千円
		計	55,634千円
	分析結果（B / C）	3.31	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、また不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により保安林機能の増大が図られること、地元からも保安林機能の発揮が期待されていることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により土砂流出等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	天川地区 （兵庫県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 兵庫森林管理署
事業の概要・目的	<p>天川地区は、兵庫県洲本市の天川上流に位置する由良国有林内の地区を対象としている。          当地区は、水源かん養保安林に指定され、その機能発揮を求められているが、不安定土砂が堆積・流出しており下流に位置する貯水ダムに被害を及ぼしつつある。          本事業は、災害を未然に防止し保安林機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基 250 m<sup>3</sup></p>		
費用対効果分析	総費用（C）	16,346千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	34,828千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	17,487千円
		計	52,315千円
	分析結果（B / C）	3.20	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば土石の流出による災害が懸念され、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため本事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により溪床に堆積する土砂の安定など下流域の保安等が図られることから事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により土砂流出等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	しもたにちく 下谷地区 （奈良県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 奈良森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>下谷地区は、奈良県吉野郡野迫川村の川原樋川の上流部に位置する伯母子国有林内の地区を対象としている。</p> <p>当地区は、自然環境の維持、保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高く、豪雨による不安定土砂の流出が続いている。</p> <p>本事業は、これらの要請に応えながら、不安定土砂の移動を抑止し、下流域の保全・保安林機能の増進を図ることを目的として本事業を計画した。</p> <p>主な事業内容 床固工 1基 30 t</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	21,731千円	
	総便益（B）	水源かん養便益 20,134千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 千円 災害防止便益 34,973千円 計 55,107千円	
	分析結果（B / C）	2.54	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば土石の流出による災害が懸念され、下流域の保全等水土保全機能の発揮のため本事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により溪床に堆積する土砂の安定など下流域の保安等が図られることから事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により土砂流出等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効果的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	伊与谷地区 （広島県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>伊与谷地区は、広島県比婆郡口和町の江の川上流に位置する釜ヶ峰山国有林内の地区を対象としている。          当地区は、自然環境の維持、保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高く、降雨により渓流の荒廃が進みつつあり、不安定土砂の移動が活発になっている。          本事業は、これらの要請に応えながら、不安定土砂の移動を抑止し、下流の保全並びに水土保持機能の維持・向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 渓間工 1基 280 m<sup>3</sup></p>		
費用対効果分析	総費用（C）	18,269千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	8,837千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	26,230千円
		計	35,067千円
	分析結果（B / C）	1.92	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば土石の流出による災害が懸念され、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため本事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により溪床に堆積する土砂の安定など下流域の保安等が図られることから事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により土砂流出等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16～17年度（2年間）						
事業実施地区名 （都道府県名）	おあたにやま わほかちく 大谷山710わ外地区 （広島県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 広島森林管理署						
事業の概要・目的	<p>大谷山710わ外地区は、広島県福山市の有地川上流に位置する大谷山国有林内の地区を対象としている。          当地区は、自然環境の維持、保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高く、豪雨による不安定土砂の流出が続いている。          本事業は、これらの要請に応えながら、崩壊地の拡大防止、不安定土砂の移動を抑止し、下流域の保全・保安林機能の増進を図ることを目的として本事業を計画した。</p> <p>主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>溪間工</td> <td>1基</td> <td>400 m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>山腹工</td> <td>1箇所</td> <td>0.08 ha</td> </tr> </table>			溪間工	1基	400 m <sup>3</sup>	山腹工	1箇所	0.08 ha
溪間工	1基	400 m <sup>3</sup>							
山腹工	1箇所	0.08 ha							
費用対効果分析	総費用（C）	37,906千円							
	総便益（B）	水源かん養便益	6,879千円						
		山地保全便益	千円						
		環境保全便益	千円						
		災害防止便益	87,433千円						
		計	94,312千円						
	分析結果（B / C）	2.49							
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、また不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により保安林機能の増大が図られること、地元からも保安林機能の発揮が期待されていることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により土砂流出等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>								

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	たけなかしょうりゅうちく 竹中上流地区 （広島県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 広島森林管理署
事業の概要・目的	<p>竹中上流地区は、広島県賀茂郡黒瀬町の神洗川上流に位置するトウノ原山国有林内の地区を対象としている。</p> <p>当地区は、自然環境の維持、保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高く、豪雨による山腹崩壊箇所の拡大、崩壊土砂の流出が続いているため水利組合からの復旧要望も出されている。</p> <p>本事業は、これらの要請に応えながら、崩壊地の拡大防止、不安定土砂の移動を抑制し、下流域の保全・保安林機能の増進を図ることを目的として本事業を計画した。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1箇所 0.03ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	5,673千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	6,859千円
		山地保全便益	33,832千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	40,691千円
	分析結果（B/C）	7.17	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念され、また不安定土砂が流下する恐れがあり、下流域の保全等水土保持機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により保安林機能の増大が図られること、地元からも保安林機能の発揮が期待されていることから、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、復旧対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

# 事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	井ノ口地区 <small>いのくちちく</small> （京都府）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>井ノ口地区は、京都市の貴船川沿いに位置する貴船山国有林内の地区を対象としている。                  当地区は、観光地として有名な貴船に接しており、年間通して多く観光客や車両の通行があり、景観の維持、保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請が高く、施工予定地の下には料亭旅館が建ち並んでいる。                  本事業は、これらの要請に応えながら、急傾斜地の崩壊又は不安定土砂の流出による直下の施設への被害の恐れがあるため、流域保全・保安林機能の維持を図ることを目的として本事業を計画した。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1箇所 0.12ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	4,808千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	3,759千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	57,911千円
		計	61,670千円
	分析結果（B / C）	12.83	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 急傾斜地の山腹崩壊を予防し、旅館施設、下流域の保全等保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により保安林機能の増大が図られること、地元からも保安林機能の発揮が期待されていることから事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、予防対策により林地崩壊等の発生や下流域等への被害などの山地災害の防止効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

# 事前評価個表

事業名	保安林整備促進（国有林）	事業計画期間	平成16～18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	白谷山地区 （奈良県）	事業実施主体	近畿中国森林管理局 奈良森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>白谷山地区は、奈良県吉野郡十津川村の熊野川上流に位置する白谷山国有林内の地区を対象としている。                  当地区は、若齢人工林が多く、過密化した森林が多いため、下層植生が消滅しつつあり、山地保全、自然環境の維持、保全及び水源かん養等、公益的機能の発揮等のために早急に整備を行う必要がある。                  本事業では、森林整備による森林の機能充実・林床保護や不安定土砂の抑止を図るための治山施設の整備を行い、国土保全機能や保安林機能の増進を図ることを目的として本事業を計画した。</p> <p>主な事業内容 森林整備 保育 33 ha 本数調整伐 180 ha</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	65,008千円	
	総便益（B）	水源かん養便益	1,694,207千円
		山地保全便益	16,194千円
		環境保全便益	千円
		災害防止便益	千円
		計	1,710,401千円
	分析結果（B / C）	26.31	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 過密化した森林の整備により水源かん養・山地災害の防止等の水土保全機能の持続的・効果的な発揮を図るため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 事業の実施により森林の機能発揮が図られ、水源かん養機能の向上など下流域の保全等が図られることから事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</li> </ul> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林整備により森林の持続的・効果的機能発揮が図られ、水源かん養・山地災害の防止等効果について、効率的に計画されているものと認められる。</p>		

## 事前評価個表

事業名	水源森林総合整備（国有林）		事業計画期間	平成16年度～平成20年度（5年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	ひがしかわ 東川 （高知）		事業実施主体	四国森林管理局 安芸森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当地区は、高知県東部奈半利川上流に位置し、下流には奈半利町外3町村の水源である魚梁瀬ダムがあることから水資源確保上重要な地域であるが、砂岩、泥岩の互層で脆弱な地質であり、豪雨の都度、山腹斜面の崩壊により、森林の被害、崩壊土砂の流出が発生していた。このため、崩壊地の復旧整備、森林整備等を総合的に実施し、水土保持機能の維持、向上を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工：25基 山腹工：1.40HA 森林整備 484HA</p>				
費用対効果分析	総費用（C）			841,418	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	263,146		千円
		山地保全便益			千円
		環境保全便益			千円
		災害防止便益	3,945,590		千円
					千円
		計	4,208,736		千円
	分析結果（B/C）				5.00
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持、向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、崩壊地の復旧や溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持、向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>				

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成19年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ふきがたにやま</small> 路ヶ谷山 （高知）	事業実施主体	四国森林管理局 嶺北森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、高知市の北西部、愛媛県境付近に位置し、基岩は砂岩、泥岩より成り非常に脆弱な地質であり、豪雨の都度、山腹斜面の崩壊により、森林の被害、崩壊土砂の流出が発生していた。</p> <p>このため、山腹脚部の固定及び溪床に不安定に堆積している土砂の流出を防止し、保安林機能の増進を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工：4基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	108,897	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	12,249	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益		千円
	災害防止便益	487,434	千円
			千円
	計	499,683	千円
	分析結果（B/C）	4.59	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大が懸念されることから、下流域の保全等保安林機能の発揮のため当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当該事業の実施により、崩壊地の復旧や溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、事業の有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法で検討されており、また、費用以上の効果も期待できることから、効率性は認められる。</li> </ul>		



## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>ふしせぬのまきちく</small> 藤瀬布巻地区 （佐賀県）	事業実施主体	九州森林管理局 佐賀森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、佐賀県と福岡県の境をなす雷山から三瀬峠に至る山地の南側斜面嘉瀬川の源流に位置し、流域は放射状となっているため、水源涵養保安林に対する期待が大きい箇所である。</p> <p>過去に施工された治山ダム等は、これまでの集中豪雨等で満砂状況となっており、計画地の北山流域は、山地災害危険区域に指定されている。</p> <p>このため、流域に堆積した不安定土砂の安定と山脚固定による溪岸浸食防止のため、早期に溪間工を施工し復旧を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	21,635	千円
	総便益（B）	5,898	千円
	水源かん養便益		千円
	山地保全便益	338	千円
	環境保全便益	38,247	千円
	災害防止便益		千円
	計	44,483	千円
	分析結果（B / C）	2.06	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成17年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>せぶりやまちく</small> 背振山地区 （佐賀県）	事業実施主体	九州森林管理局 佐賀森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、福岡県と佐賀県境の背振山と金山に至る山地の南側斜面に位置し山頂付近は斜面が急勾配であるために荒廃状況が著しい。このため、当該流域の渓床内には、山腹崩壊で流出した不安定土砂が堆積しており、今後、集中豪雨等でこれらの不安定土砂が流下し、下流域に被害を与える恐れがあることから早期に溪間工を施工し、不安定土砂の流出を防止して渓流域の安定を図るものである</p> <p>主な事業内容 溪間工 2基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	39,933	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益 11,180 千円 山地保全便益 千円 環境保全便益 231 千円 災害防止便益 78,494 千円 計 89,905 千円		
	分析結果（B / C）	2.25	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、渓床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されるため、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、渓床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	海岸防災林造成(国有林)	事業計画期間	平成16年度～平成17年度(2年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>むらしたちく</small> 村下地区 (長崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 長崎森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、九州最西端の五島列島の福江島南部に位置し、平成15年9月の台風14号により、保安林の海岸部に位置する林地の荒廃が発生した。過去にも台風の襲来等で被害を受けた地域であり、保全対象の人家・水田等が直近にあることから、早期に防潮堤を施工し復旧を図るものである。</p> <p>主な事業内容 防潮堤</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	22,596 千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	3,127 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	179 千円
		災害防止便益	51,168 千円
		計	54,474 千円
	分析結果(B/C)	2.41	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 従来からの台風等の襲来等により、潮害防備保安林内の防潮堤の侵食が著しいため、このまま放置しておくると直近の保全対象である人家水田に被害を及ぼす危険性があるために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、高波、波浪等の被害から潮害防備保安林の林帯の侵食を防ぎ、保安林の公益的機能の維持・向上が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<sup>せたみたけちく</sup> 瀬田御岳地区 （長崎県）	事業実施主体	九州森林管理局 長崎森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、対馬上島のほぼ中央部に位置し、平成10年8月の集中豪雨により、山腹斜面から流出した土石が御岳林道まで流出し被害を与えた。溪床内には不安定土砂が多量に堆積しており、今後の降雨で再び下流へ流出する恐れがある。このため、不安定土砂の流出防止と山脚の固定を図るため、早期に谷止工を施工し、荒廃溪流の復旧を図るものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	14,423	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	3,980	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益	277	千円
	災害防止便益	27,928	千円
	計	32,185	千円
	分析結果（B / C）	2.23	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	奥地保安林保全対策モデル(国有林)	事業計画期間	平成16年度～平成17年度(2年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	かしはちく 檜葉地区 (宮崎県)	事業実施主体	九州森林管理局 宮崎北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、九州山地の脊梁地帯である宮崎県西部の南郷村に位置し、森林施業の対象地や崩壊地等は、林道等から離れているため地形的条件が厳しく、復旧事業等の整備がなされていない状況にある。</p> <p>また、未整備箇所の過密化した林分の一部表土には、降雨等による表土流出が見られ、森林の公益的機能の低下から、今後の降雨等で崩壊地の拡大と崩壊土砂等の流出の恐れがある。</p> <p>このため、人力施工による森林整備と併せて現地に発生する材料等を有効活用した治山工事を実施し保安林の公益的機能の充実を図るものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工、除伐、本数調整伐</p>		
費用対効果分析	総費用(C)		18,861 千円
	総便益(B)	水源かん養便益	29,363 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	400 千円
		災害防止便益	36,968 千円
		計	66,731 千円
	分析結果(B/C)		3.54
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 過密化した林分の状況から森林の荒廃が著しく進行しており、このまま放置すれば崩壊地の発生と既存の崩壊地の拡大が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃した森林の健全性が図られると共に崩壊地の拡大防止と復旧が図られ、森林の公益的機能の維持増進と保全機能が向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地発生材の利用等により、効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	海岸防災林造成(国有林)		事業計画期間	平成16年度～平成18年度(3年間)	
事業実施地区名 (都道府県名)	いわやまちく 岩山地区 (宮崎県)		事業実施主体	九州森林管理局 西都児湯森林管理署	
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、宮崎県中央部の日向灘沿いに位置し後方にはJR日豊本線、民家、道路等の保全対象が近接している。 近年の台風等の襲来で潮害防備保安林の林帯の決壊が発生したため、保安林の機能低下を抑える必要があることから、早急に丸太防風柵工を施工し、保安林機能の維持・増進を図るものである。</p> <p>主な事業内容 丸太防風柵工</p>				
費用対効果分析	総費用(C)	38,742 千円			
	総便益(B)	水源かん養便益	13,451 千円		
		山地保全便益	千円		
		環境保全便益	237 千円		
		災害防止便益	103,467 千円		
		計	117,155 千円		
	分析結果(B/C)		3.02		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 従来からの台風等の襲来により、潮害防備保安林の林帯の決壊が発生したため、このまま放置しておくとな保安林機能の消滅が懸念されるために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、高波、波浪等の被害から保安林の林帯の決壊を防ぎ、保安林の公益的機能の維持・向上が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>				

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>うちやまちく</small> 内山地区 （宮崎県）	事業実施主体	九州森林管理局 宮崎森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、知福川の間際に位置し、地形は急傾斜地になっており下流域には生活道及び橋も存在する。  上流域は、平成15年度の台風4号により崩壊し、山腹斜面は浮き石や不安定土砂があり、今後の降雨等で不安定土砂等が下流域へ流出する危険性がある。  このため、渓流域内に早急に溪間工を施工し、山脚を固定するとともに不安定土砂の流出を防止して溪流の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容  溪間工 1基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	24,038	千円
	総便益（B）	10,029	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益	414	千円
	災害防止便益	66,536	千円
	計	76,979	千円
	分析結果（B / C）	3.20	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	生活環境保全林整備（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成19年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>さるがしやうちく</small> 猿ヶ城地区 （鹿児島県）	事業実施主体	九州森林管理局 大隅森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該流域は、鹿児島県大隅半島中央の西部に位置し、大笹柄岳と横岳を主峰とする群峰に囲まれ、本城川となって垂水市に出て鹿児島湾に注いでいる。地形は花崗岩質の岩峰、巨岩、奇岩が露呈した自然探勝地となっており、新緑秋の紅葉等ハイキング、登山等に親しまれ、地理的にも鹿児島市、垂水市から日帰りできるコースとして年間1万人の入り込み者がある。また、昭和46年には「おおすみ自然休養林」の指定を受け、自然休養の場となっている。</p> <p>当該地域の人工林は、林層が過密化した林分となっており、国土の保全及び水源涵養機能を高度に発揮させるため、森林整備等を積極的に進め公益的機能の充実を図る必要がある。</p> <p>また、森林整備を計画的、効率的に実施するための管理車道、管理歩道等の整備も図り有効的な実施に努める。</p> <p>主な事業内容</p> <p>山腹工 森林整備（本数整理伐、除伐） 管理車道 管理歩道等</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	155,955	千円
	総便益（B）	水源かん養便益	1,162,084 千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益	1,182	千円
	災害防止便益	74,670	千円
	計	1,237,936	千円
	分析結果（B/C）	7.94	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 過密化した林分の状況から、森林の荒廃が進行し放置すれば崩壊地の発生し、自然休養林である保養の場の荒廃が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、荒廃した森林の健全性が図られ、森林の公益的機能の維持増進と保全機能の向上が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成16年度～平成18年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	<small>みやのうらたけちく</small> 宮之浦岳地区 （鹿児島県）	事業実施主体	九州森林管理局 屋久島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、屋久島中央部の宮之浦岳の下流域に位置し、地形は全般に急峻で下降斜面の急傾斜地が多く、また起伏も激しい地形となっている。 近年の台風等の襲来により、流域内には不安定土砂が堆積されており、今後の降雨等により下流域へ流出する恐れがある。 このため、溪間工を施工し、溪床勾配を緩和し山脚を固定するとともに縦横浸食の防止、不安定土砂の流出を抑止して流域の安定を図るものである。</p> <p>主な事業内容</p> <p style="text-align: center;">溪間工      3基</p>		
費用対効果分析	総費用（C）	60,310	千円
	総便益（B）		
	水源かん養便益	32,395	千円
	山地保全便益		千円
	環境保全便益	254	千円
	災害防止便益	80,168	千円
	計	112,817	千円
	分析結果（B / C）	1.87	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 山腹崩壊地、溪床に堆積する不安定土砂及び森林の荒廃状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されることから、水土保持機能の維持・向上のために当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性： 当事業の実施により、崩壊地の復旧、溪床に堆積する土砂の安定及び荒廃森林の復旧が図られ、水土保持機能が維持・向上されることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		

## 事前評価個表

事業名	海岸防災林造成(国有林)	事業計画期間	平成16年度(1年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>なかしようじうらちく</small> 中庄司浦地区 (鹿児島県)	事業実施主体	九州森林管理局 屋久島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、種子島北東部の西海岸沿いに位置し、後方には民家、道路、田畑等の保全対象が近接している。 近年の台風等の襲来で潮害防備保安林の沿岸部の侵食が著しく進行しており、保安林の機能低下を抑える必要があることから、早急に護岸工を施工し、保安林機能の維持・増進を図るものである。</p> <p>主な事業内容 護岸工</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	15,385 千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	12,442 千円
		山地保全便益	千円
		環境保全便益	369 千円
		災害防止便益	45,865 千円
		計	58,676 千円
	分析結果(B/C)	3.81	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性：従来からの台風等の襲来により、沿岸部の侵食が著しく進行したため、このまま放置しておくことと保安林機能の消滅が懸念されることから当事業の実施が必要である。</li> <li>・有効性：当事業の実施により、高波、波浪等の被害から保安林の林帯の決壊を防ぎ、保安林の公益的機能の維持・向上が図られることから有効性は認められる。</li> <li>・効率性：対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</li> </ul>		